

令和6年度 第6回施設長会 会議資料

(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

- 1 各プロジェクト委員会の進捗状況等について … 資料1
 - (1) 災害プロジェクト委員会について
 - (2) 人材プロジェクト委員会について
- 2 施設長会情報交換テーマについて … 資料2
- 3 役員改選について … 資料3
- 4 令和7年度事業計画（案）について … 資料4
- 5 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会 … 資料5
 - ・第3回委員会（2/6）について
 - 【第22回かながわ高齢者福祉研究大会・高齢者福祉施設PR委員会の内容含む】
- 6 第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）について … 資料6
- 7 その他

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会・防災班長会議

(1) 第5回災害プロジェクト委員会・防災班長会議 / 1月21日(火) 14時～15時

«協議概要»

- ① 令和6年度 E-Welfiss 及び防災無線機を活用した情報伝達訓練実施結果について
別紙報告書に基づき危機管理担当より報告。

- ② 令和7年度老人福祉施設協議会災害プロジェクト委員会事業計画(案)について

1 会議

災害プロジェクト委員会：適宜開催する。(年5回程度)

2 活動内容

(1) 災害に関する研修会等の開催について

- BCP に基づく研修・訓練及びその振り返りに基づいた BCP の見直しに関する研修会を開催する。

- 市内の施設間連携を進めていくため他都市の取組み等を聞き、災害時に同じ地域の施設間で協力できることを再考する契機となる研修会の開催や情報提供を行う。

→BCP に関する研修を定期的実施することで自施設の BCP の精度を上げる機会とする。

グループワークを取り入れることで他施設との情報交換をする機会とする。

障害や保育等、分野をこえて周知することで種別を越えた情報交換の機会を創出する。

新しい施設長も増えてきたので、E-Welfiss の操作説明会・講習会を実施できると良いかもしれない。

(2) 施設間連携及び情報共有について(川崎市内施設での施設間連携)

- 「非常災害時の相互の応援に関する規約」や「災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム(通称 E-Welfiss)」を運用し、実効性のある施設間連携を推進する。

- 川崎市内の施設間連携及び情報共有をより一層進めていくため、他都市との情報交換や意見交換を実施する。

→横浜市社協高齢福祉部会との情報交換会は次年度も開催したいが、明確なテーマ設定をすることでより意義のある情報交換会とする。

(3) 各施設・各区単位での災害時シミュレーション訓練の検討及び実施について

- 各施設・近隣施設(区単位)で取り組めるシナリオ等の検討及び訓練を実施する。

○川崎市の情報共有システムを活用し、近隣施設（区単位やエリア単位）等との情報伝達訓練を定期的実施し、災害を想定した実効性のある施設間連携を推進する。

→E-Welfiss を操作することのできる職員を増やしたい（相談員・事務員・介護職も）。
スマホやタブレットでも E-Welfiss を使用できることを周知していく。
物資移送訓練で実際に他施設に行くことでの気づきもあるので、より実践的な訓練を
することができるように区ごとにブラッシュアップしていく。
区よりも小規模な範囲での訓練も検討する。
二次避難所の立ち上げについて検討していく（人がいない状況で受け入れることができるのか？）。

(4) その他

○その他、必要な事業を行う

③ 各班の訓練等取組み状況について

川崎：1月9日に第6回情報伝達・物資移送訓練を実施。被災想定施設は境町フェニックス。
E-Welfiss については初めて操作する方がいたので、改めて継続することの大切さを実感。
次回は4月10日にゆとりあを被災想定施設として訓練を実施。夏までには区内施設を回り
切る予定。夏以降の訓練について検討していく。

幸：3月実施に向けて被災想定施設等調整中。

中原：3月にみやうちを被災想定施設として物資移送訓練を実施予定。次年度の計画は3月の班
会議で話し合う予定。

高津：12月と1月はインフルエンザやコロナウイルスの感染拡大があり、活動はなかった。

2月12日もしくは13日で情報伝達訓練を実施する予定。次年度の計画は年度初めに
立てる予定。

宮前：フレンド神木とわらく桃の丘が被災したと想定して卓上訓練を実施。同じスレッドで情報
を入れてしまったため情報が錯綜した。スレッドは2つに分けた方が良かったという反省点
があった一方でスレッドが増えることで混乱が生じることも懸念される。情報伝達訓練を
4月15日に実施する予定。触れる機会を増やせるような取り組みをしていきたい。

多摩：1月20日に生田広場を会場として応援職員受入訓練を実施した。応援職員については事故
のリスクを鑑みて排泄介助に特化してもらっている。訓練30分、班会議30分とすること
で各施設の負担を大きなものにしないようにしている。4月によみうりランド花ハウスを
会場として物資移送訓練を実施予定。次年度は物資移送・人的支援・物資移送・人的支援の
4回で訓練を実施していきたい。

麻生：今年度は感染症や台風等の影響で訓練が実施できていない。2月18日に訓練を実施したい
と考えており、今回は感染症等があったとしても情報伝達訓練だけは実施する。

④ E-Welfiss及び防災無線機の仕様について

- ・ インターフェースの見やすさはあるが、Line のようなポップアップ機能があると良い。
- ・ 道路状況等の写真を撮ってアップできると良い。
- ・ 防災無線機についてはエリアによって繋がりにくさがあると感じる。また、発災時に連絡の順番待ちをすることになるのか、本当に発災した時のことを想定できているのか疑問がある。

E-Welfiss 及び防災無線機を活用した情報伝達訓練 実施結果

1 実施概要

- (1) 日 時 令和6年11月22日(水) 13時10分～15時00分
15時10分～15時40分【振り返り会】
- (2) 想定災害 令和6年11月20日(月) 8時30分発生
川崎市直下地震(最大震度6強)
- (3) 使用ツール E-Welfiss・防災無線機(MCA無線)
※防災無線機が未設置または繋がらない場合は、電話やE-Welfissを使用

2 訓練参加状況

- ・高齢者施設 55 / 104 施設中
 - ・障害者施設 7 / 18 施設中
 - ・救護施設 1 / 1 施設中
 - ・地域相談支援施設 26 / 52 施設中
 - ・地域支援室 3 / 3 室中
 - ・その他 1 / 1 機関
- 福祉施設等 計 90 / 178 施設中
- ・各区支所高齢・障害課 9 / 9 部署中
 - ・局内各部署(事務局除く) 3 / 3 部署中
- 市側部署 計 12 / 12 部署中
- 合計 102 / 190 施設・部署中

3 訓練対応状況

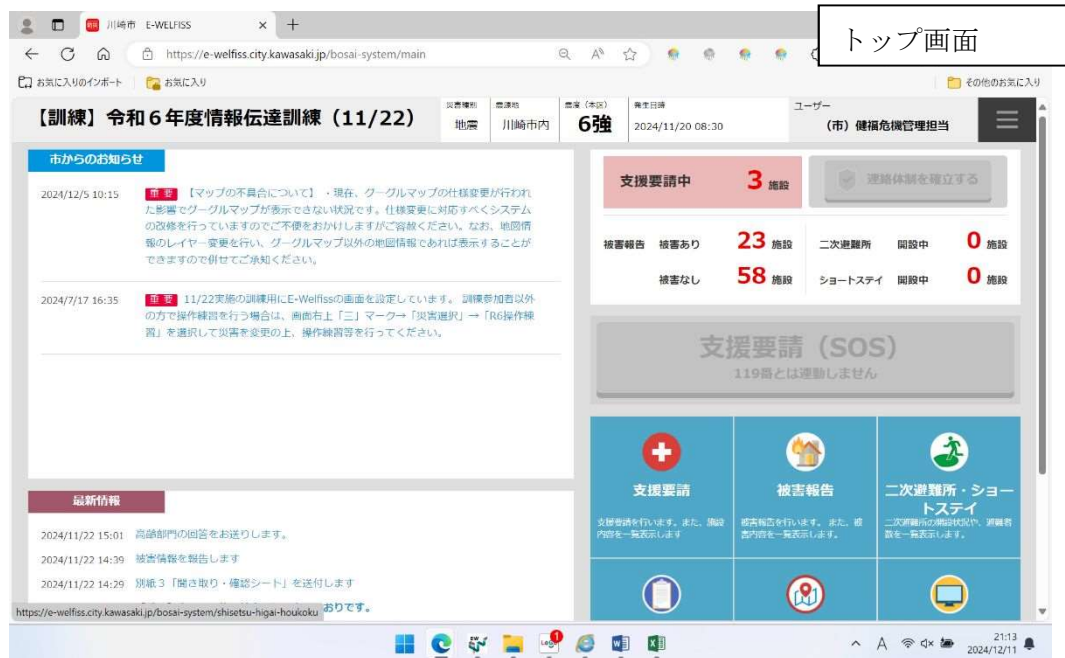
- (1) 各区支所から災害福祉調整本部への被害状況報告(報告完了時間)

川崎区	14時	21分
大師地区	14時	38分
田島地区	14時	55分
幸区	14時	34分
中原区	14時	21分
高津区	14時	18分
宮前区	14時	24分
多摩区	14時	39分
麻生区	14時	36分

- (2) 災害福祉調整本部から危機管理担当への被害状況報告(報最終告完了時間)
15時01分

(3) E-Welfiss の対応状況

- ・連絡体制確立 80件
- ・被害報告 81件（被害あり23件、被害なし58件）



4 アンケート

- (1) 回答期間 訓練終了後～11月29日（金）まで
- (2) 回答数 67
- (3) 回答内容 別紙のとおり

以上

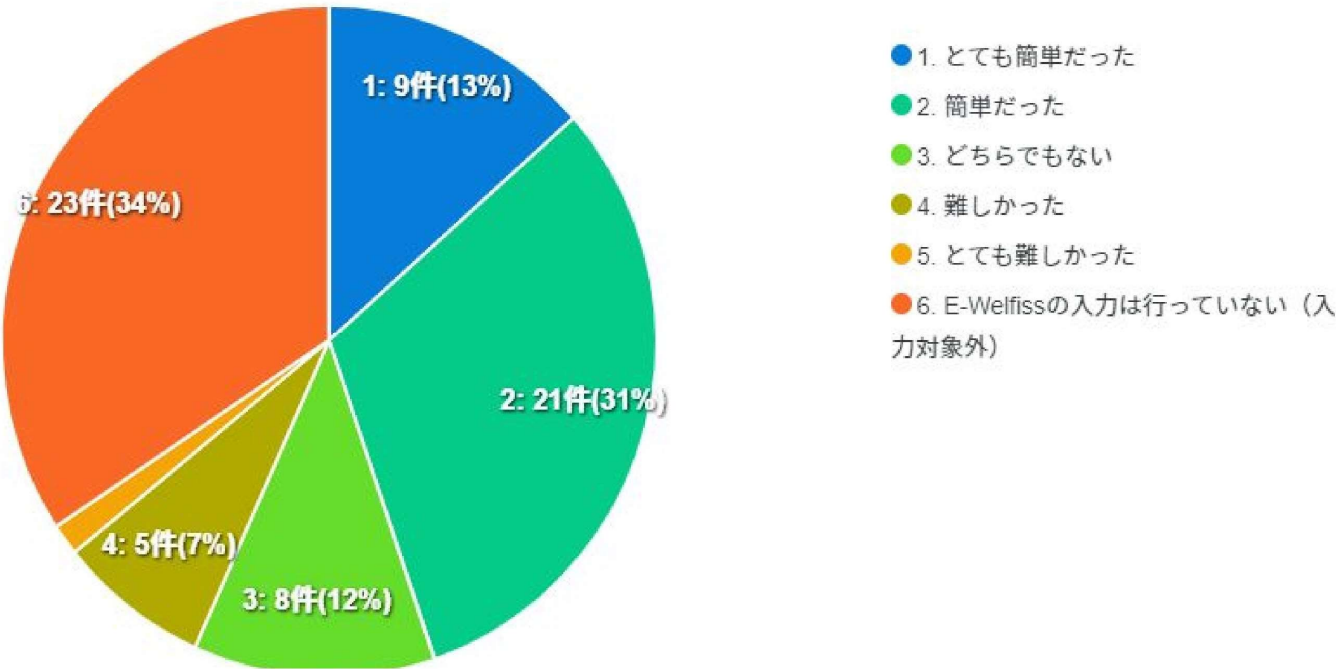
令和6年11月22日（金）実施

E-Welfiss及び防災無線機を活用した情報伝達訓練 アンケート結果

※記述式項目に記載いただいた内容は、主な意見を一部抜粋・集約しています。

アンケート実施期間 11月22日（金）～29日（金）
 アンケート回答数 67件

Q2. 事前準備について



Q3. 事前準備（E-Welfissの入力）に関して、気が付いた点やご意見・ご感想があれば入力してください。

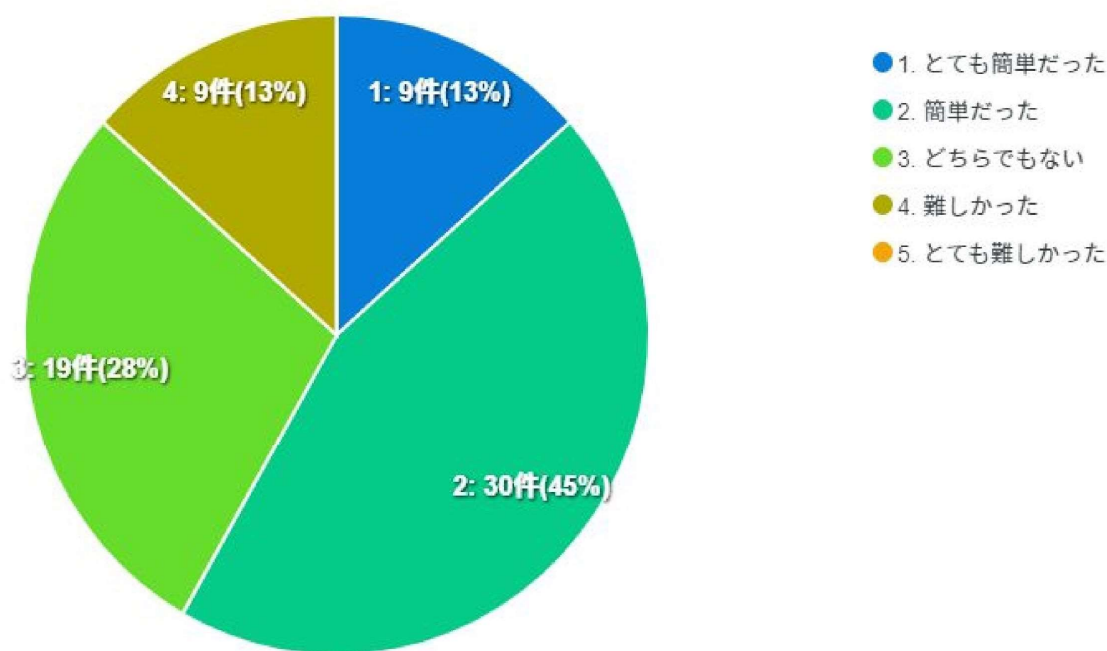
【各施設等】

- ・ 今後、日祭日や夜間にも入力できるように、できるだけ多くの職員が操作できるようにしていきたい。
- ・ 操作方法を全員の周知が必要かと感じた。
- ・ 事前準備を失念していたことと、IDパスワードが分からず戸惑った。ログイン後はどこまで入力すればいいのかわからなかった。
- ・ 実際災害が起きた際、特に停電したら入力できないと思いました。

【川崎市職員】

- ・ パスワードをわかる職員に限られており混乱があった。ログイン後に入力するマニュアルが、実際の画面が記載されているものとより分かりやすいと感じた。
- ・ 官民協働の複合施設の場合に人数については、同じ事務室に民間職員もいるが行政部分だけでいいのか迷った。また、民間区域の損壊について確認するのに時間がかかると感じた。
- ・ IDやパスワードの周知がうまくされていなかったため、E-Welfissにログインするまでに時間がかかってしまった。
- ・ 事前準備にあたり、IDやパスワードが不明という包括等からの連絡が複数ありました。

Q 4. 防災無線機、E-Welfiss、電話等を活用した情報伝達はいかがでしたか？



Q 5. 防災無線機、E-Welfiss、電話等を活用した情報伝達に関して、気が付いた点やご意見・ご感想があれば入力してください。

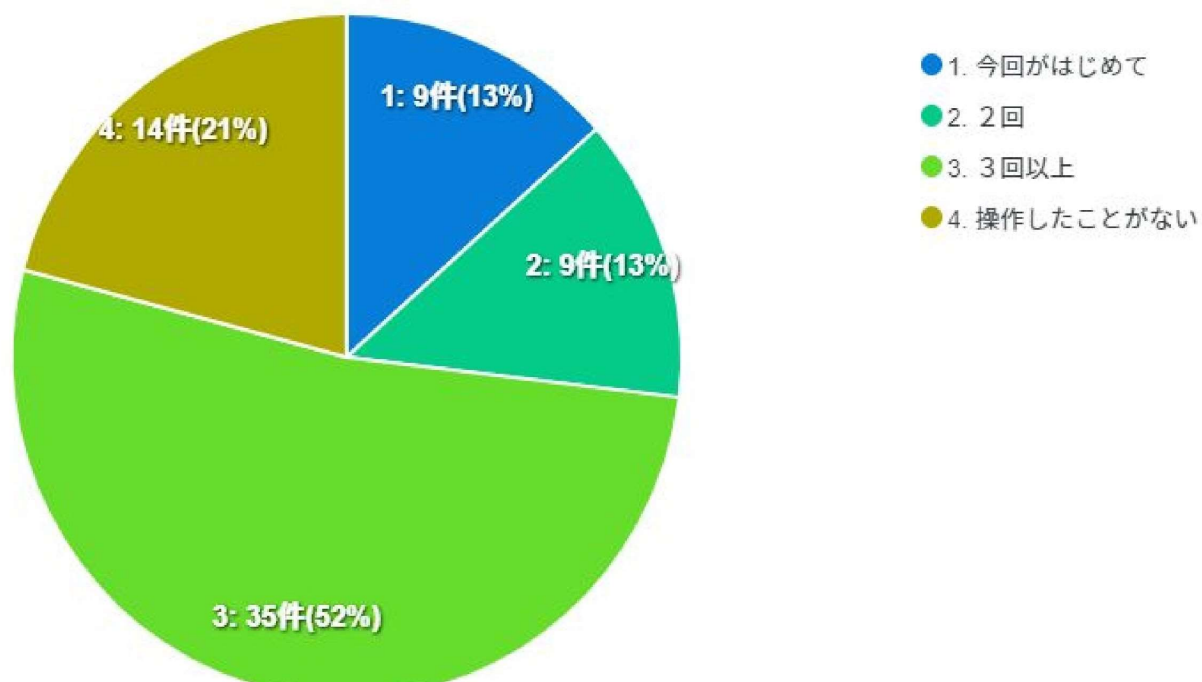
【各施設等】

- ・伝達後に役所からの復唱が聞こえなかったのか、なかったのかわからず伝達できたかが不明だった。
- ・グループ通信で聞こえない局（他包括）があります。
- ・防災無線は、通信状況が悪く、途中までやり取りが聞き取れたのですが、途中で聞きとれなくなりました。
- ・E-welfissは入力に慣れてきましたが、他の機能については効率よく利用できていない。
必要な情報を入手できるところまで訓練として行いたいと思います。
- ・施設間等での無線連絡を行うなどイレギュラーに対応できる訓練、災害情報、避難所情報など実際に災害が起きた際に、伝達する必要がある情報伝達訓練を行いたい。
- ・他事業所の報告も無線機から流れているため、報告の仕方を整理でき、安心した様子でした。
- ・防災無線機の電源が切れているのに気が付きませんでした。（故障と勘違い）
- ・報告から役所の職員の方の確認に時間がかかりすぎているように思えました。
- ・グループ通信と書いてあったが個別通信になっており、他のセンターの応答状況もわからず。訓練が終わっていないのかと思い、区役所に電話したら、訓練は終了したと言われた。

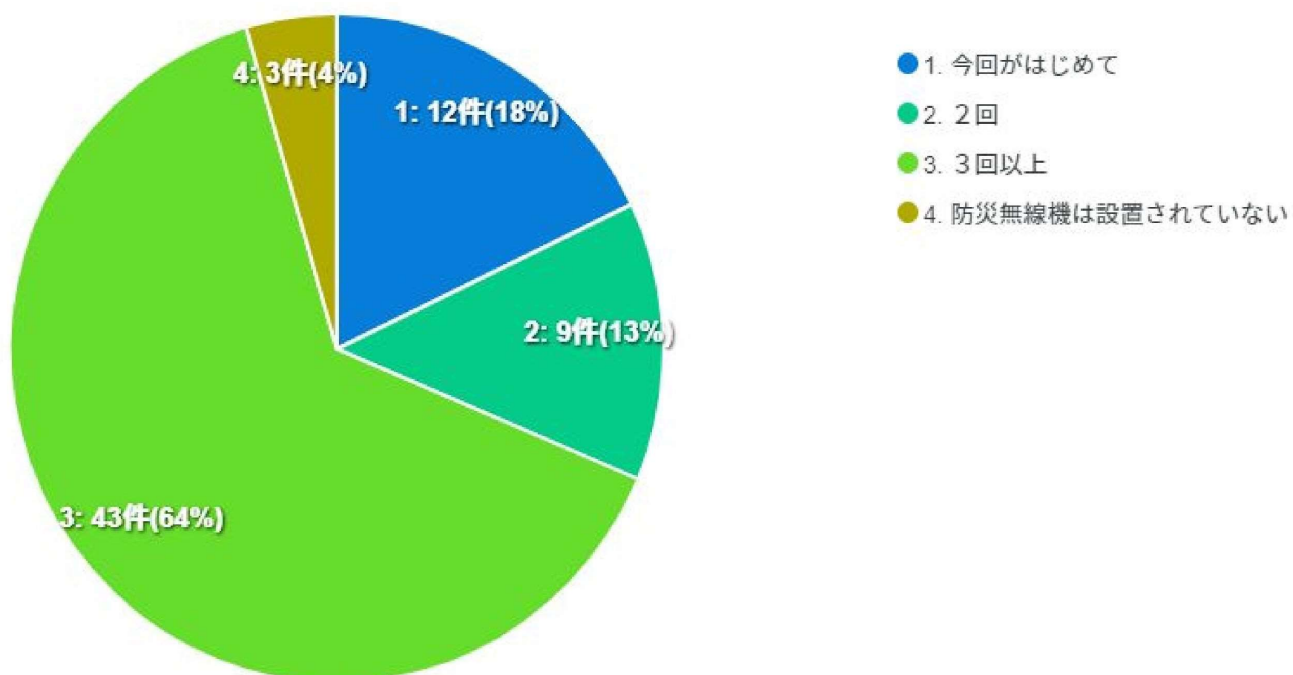
【川崎市職員】

- ・無線が繋がらなかったり（電源が入っていない施設あり）、無線がつながっているのに音声がか聞こえない事業所・施設が多かった。
- ・区から被害情報の確認の無線が入らない。事前の参加の有無の回答が無い施設であったため、無線のやり取りが漏れていた可能性あり。また、訓練の参加、不参加の回答がなかった二次避難所で、被害情報の入力が行なわれているものが見受けられたため、該当する施設の防災無線機を使用した訓練の取扱いの統一が必要。
- ・訓練開始時の一斉放送で聞き取りができなかったグループあり。
- ・防災無線機について、電波状況が悪く電話で確認を行った。時間に合わせて受信感度が良い外で待機してくれているところもあり。
- ・センターとのやり取りで、通信不可（圏外）となっていた。後日確認したところ、現在の設置状況では電波状況が悪く、圏外となっているとのこと。いずれにしても平時から無線が使える状況にないということは課題と思います。
- ・防災無線機の使い方に慣れていない職員が多く混乱があった。MCAのかけ間違えが何件かあった。
- ・防災無線機を取り扱う担当と聞き取った内容を記載する担当を分けておけば、被災状況の確認を慌てることなくできたのではなかったかと反省しました。
- ・E-Welfissの入力したデータ送信について、マニュアル等に記載されている名称と、送付先の名称が完全に一致しておらず、似た名前の課があるため送付先を確認することに少し時間を有した。

Q 6. これまでにどのくらいE-Welfissの操作を行ったことがありますか？



Q 7. これまでにどのくらい防災無線機の操作を行ったことがありますか？



Q 8. 訓練全体をとおして気が付いた点やご感想、次回以降の訓練に関するアイデアなどがあれば入力してください。

【各施設等】

- ・待たされる時間があったが、その時間を有効にできるように検討してほしい。もっとリアルに、もっと難しい課題案を検討したい。
- ・伝えるだけの一方通行な訓練が多いので、災害時に情報を伝えて区役所がどう動くのか知りたいです。
- ・グループ内の他施設の状況がわかるように、包括のように施設もグループ通信の方がいいのでは？と思いました。
- ・各区で集まっっているいろいろな訓練をしておりますが、役所の職員の方々の参加はなく、施設任せのような気がします。
- ・もう少し本格的な訓練が必要ではないかと思います。

【川崎市職員】

- ・訓練に参加する人がほぼ毎回同じであり、システム・無線の操作や災害時の動きについて、知らない職員がとても多いと思います。課や係単位の小規模で構わないので、訓練の回数を増やし、さまざまな人が訓練に参加できるともっと良いと思いました。
- ・改めて機器の操作や災害時の運用について確認する必要があると感じました。福祉調整本部員又は候補の方（異動初年度の人）は最低限の使い方や基礎的な運用は認識すべきと思うので、今回の施設や区を巻き込んでという形以外に、各部が主体となったミニ訓練（というか操作練習）を行うのがよいと思いました。その際の音頭取りは危機管理担当ではなく、各部（福祉調整本部）が主体で動くようになると、進んでいくのかなと感じました。
- ・参加確認の徹底
「参加」と回答をしていない施設が、事前準備でE-welfiss入力されていました。訓練一覧は回答不可の連絡があったのか、回答がないのか分かったほうが良い。
- ・障害と高齢者の併設施設の取り扱いの確認
障害者施設から、特養に設置している無線機の前で待機されていると連絡がありました。特養と障害の両方のグループに入れる必要性等の確認をした方がよいと思いました。
- ・無線の不調時の連絡方法の徹底
電源が入っていない、電波が無い等により無線が使えない場合の対応について、訓練としては、まず区に電話やE-welfissで連絡してもらい、区と被害情報のやりとりをしてもらうなど、マニュアル化が必要。
- ・無線機の発信先の徹底と連絡方法の確認
区に報告すべきところ、本部に無線で連絡をとった事業所がありました。訓練時は、区に発信してくださいとお伝えしました。
- ・障害者相談支援センターや包括に割り振られているE-welfissの活用について検討をお願いします。

2 人材プロジェクト委員会

(1) ハローワーク「福祉の仕事」説明会 / 1月17日(金) 13時30分～

会 場：①ハローワーク川崎 会議室

②多摩市民館 第1会議室

参加施設：1施設（地域密着型特別養護老人ホームせせらぎ）

参 加 者：①説明会25名（就職相談会15名）

②説明会16名（就職相談会13名）

(1) 川崎市社会福祉協議会（老人福祉施設協議会）について

福祉の仕事・資格の案内

(2) 施設でのケアの実際

講師：人材プロジェクト委員会 茶園施設長

(3) 福祉の現場からの声

司会：人材プロジェクト委員会 茶園施設長

「参考」今年度の福祉の仕事説明会

日程	委員（南）	委員（北）
5/17（金）	<u>すみよし 和田施設長（講話①）</u> ※ハローワーク川崎	<u>等々力 岩壁施設長（司会）</u> ※福祉パルなかはら
7/19（金）	※ハローワーク川崎	<u>すえなが 平山施設長（講話①・司会）</u> ※福祉パルたかつ
9/13（金）	<u>大師の里 古敷谷施設長（講話①・司会）</u> ※ハローワーク川崎	※エポックなかはら
11/12（火）	<u>しおん 伊藤施設長（司会）</u> ※ハローワーク川崎	※福祉パルみやまえ
1/17（金）	※ハローワーク川崎	<u>多摩川の里 茶園施設長（司会）</u> ※多摩市民館第1会議室
3/14（金）	※ハローワーク川崎	<u>金井原苑 吉野施設長（司会）</u> ※福祉パルあさお

(2) 今年度の委員会運営体制について

委員長の任期途中での退職に伴い、残任期間（令和7年1月～3月）の委員長を決める。

→岩壁副委員長を委員長とし、平山副委員長1名を副委員長とする。

新緑の郷の中島施設長に委員会に参加してもらえないか打診する。

(3) 第6回人材プロジェクト委員会と障害者福祉施設関係者等研修会・施設長会との 合同開催について

他種別との情報交換を目的として合同で開催することができないか協議

障害者福祉施設施設長向け研修会 ※施設長会と同時開催

日 時：3/19（水）14：30～16：30

会 場：川崎市総合自治会館 ホール

※13：00～14：00 施設長会（ホールにてハイブリット形式で開催）

⇒13：15～14：15 で人材プロジェクト委員会を実施

テーマ：地域との関わり方～地域の方への福祉教育について、地域の方への障害理解について

内 容：講演「社会福祉施設と地域のつながり」

事例発表「地域の拠点施設としての地域づくり（居場所）」

グループワーク「地域と共に育つ」

講 師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科

教授 高木 寛之 氏

(4) 令和7年度人材プロジェクト委員会事業計画（案）について

①会議：奇数月第3水曜日の午後2時から開催（原則）

②活動内容：各検討事項の共有及び協議、全体での事業実施

福祉人材バンク、総合研修センター、川崎市老人福祉施設事業協会等の関係
機関との連携及び実施事業への協力

③重点取組：

人材発掘

- ・福祉系大学以外へのアプローチが必要になる。一般の方にも興味を持ってもらえるような働きかけができないか検討。

人材確保

- ・Instagram や X 等の SNS の活用は必須。町田市を訪看では SNS を活用して昨年36人の看護師を採用することができたと聞いている。そうした取り組みを講師として話してもらう。
- ・施設職員の1日を30秒程度の動画にまとめて発信する。

人材育成・定着

- ・川崎市に転居してもらう施策の検討。
- 市営住宅のリノベーションや家賃支援内容等、行政に対する働きかけができないか。

(5) 今後の予定

第6回人材プロジェクト委員会 / 3月19日（水）13時15分～

情報交換について

1 情報交換について

施設長会の際に、会員施設同士で情報交換、意見交換が出来る時間が限られており、平成30年度より施設長会と合わせて実施している。

老人福祉施設「協議会」という名のとおり、施設同士等で情報交換、意見交換が出来るテーマを設け、設定テーマに基づく30分程度（目安）の情報交換を実施します。

（1）会員施設から情報交換のテーマを募集

〔情報交換のテーマ例：看取りの実施方法、加算の取得状況、職員の雇用形態 等〕

（2）正副会長等会議において、会員施設から集約した情報交換テーマを確認し、施設長会での情報交換テーマを検討します。

（3）施設長会の開催通知に、情報交換の設定テーマを記載し各施設へ連絡。

各施設には必要に応じて資料等をご用意いただきます。

2 令和6年度第6回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：各施設で今年度一番対応に困ったこと

内 容：病院との連携、介護報酬改定に伴う加算取得、物価高騰やそれに伴う事業者との関わり、人材確保、人材紹介事業者との関り等

3 令和6年度第5回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：物価高騰・人材確保・人事管理等の対応で施設長として悩むこと

内 容：清水会長から後ほど説明

4 令和6年度第4回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：物価高騰に伴い事業者との関りで困っていること、不安に感じていること

内 容：給食業者からの値上げ交渉等

5 令和6年度第3回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：介護報酬改定を受けて取り組みが変化したことや新たに取り組むようになったこと

内 容：加算取得状況や夜間宿直の取り扱いの変化等について

6 令和6年度第2回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：経営政策研究ワーキングで協議した内容（人材育成）について

内 容：介護大学校、喀痰吸引研修等

7 令和6年度第1回施設長会の情報交換会のテーマについて

テ ー マ：介護保険法の改正と報酬改定により示された国の方向性に特養はどう取り組む必要があるのか

内 容：病院と特養の連携、介護福祉士養成の取り組み

話題提供：社会福祉法人照陽会 特別養護老人ホームみんなと暮らす町 広嶋施設長

8 過去の情報交換会テーマ一覧

【令和3年度】

6月16日	アフターコロナの施設運営について
8月25日	新型コロナウイルス感染症への対応について
10月20日	With コロナの施設運営について
12月15日	科学的介護情報システム「LIFE」について
動画配信	介護職員処遇改善支援補助金について

【令和4年度】

6月15日	施設におけるコロナ対応について～第6波終了の今、第7波に備えて～
8月25日	新型コロナウイルス第7波における各施設の課題、問題点、各施設との連携方法
10月19日	I C T機器の導入について
12月21日	【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について
2月15日	施設運営における補助金の有効活用について～大規模修繕・コロナ対策など～

【令和5年度】

4月19日	災害について（各区の防災班長・副長について）
6月21日	新型コロナウイルス5類移行に伴う対応の変化について
8月23日	派遣職員と人材紹介事業所について
10月18日	派遣職員と人材紹介事業所について～part2～
12月20日	容態急変等による救急対応や看取りの現状について
2月21日	人材確保・災害対策・感染対策・事業所契約・利用者トラブル等、各施設で今年度一番対応に苦慮した事例について

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
役員改選等のスケジュールについて

令和 6 年度

	会議	役員改選	委員改選（災害 P・人材 P）
2 月	施設長会 【2/19（水）】	会長選任方法の確認	委員募集方法の確認
		会長立候補者の募集案内 《立候補期間》 2/21（金）から 3/7（金）まで	委員の募集案内 《募集期間》 2/21（金）から 3/7（金）まで
3 月		立候補状況を各施設へ報告 【3/10（月）】	募集状況を各施設へ報告 【3/10（月）】
		会長候補者の推薦依頼 ※立候補者がいない場合 《推薦期間》 3/11（火）から 3/21（金）まで	
		推薦状況を各施設へ報告 【3/24（月）】	

令和 7 年度

	会議	役員改選	委員改選
4 月	正副会長等会議 （4/ ）※現行役員		
	施設長会 【4/16（水）】	会長の選任	新委員の報告
6 月	正副会長等会議 （6/ ） ※新役員候補者		
	施設長会 【6/18（水）】	副会長等の選任	

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会運営要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、川崎市社会福祉協議会施設部会運営要綱に基づき設置される川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会（以下「本協議会」という。）の運営について必要な事項を定める。

(構 成)

第2条 本協議会は社会福祉法人川崎市社会福祉協議会会員である老人福祉施設で構成する。

(役 員)

第3条 本協議会の円滑な運営を図るため、会長1名及び副会長2名を置く。

2 会長は会務を統括し、会長に事故あるときは、副会長がその職務を代理する。

(役員を選任)

第4条 会長の選任については、あらかじめ立候補期間を設け、立候補者の中から、施設長会において選任する。選任の方法については、施設長会においてその都度協議のうえ定める。

2 立候補がなかった場合は、施設長会において互選により選任する。

3 副会長は、会長が候補者を選出し、施設長会において選任する。

(会 議)

第5条 本協議会会長は必要に応じ別表に定める会議を招集し、その議長となる。ただし、施設長会の議長は、その都度選任する。

(委員会の設置)

第6条 本協議会は必要に応じ委員会を設置することができる。

(その他)

第7条 この要領を変更する場合は、施設長会において決定するものとする。

2 この要領に定めるもののほか、本協議会の運営に必要な事項は、施設長会で協議のうえ定める。

附 則

この要領は平成23年4月1日から施行する。

附 則

この改定要領は平成24年11月1日から施行する。

附 則

この改定要領は令和2年4月1日から施行する。

(別 表)

会議名	構成
施設長会（総会含む）	本協議会会員施設の施設長
正副会長会議	正副会長

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会会長の選任方法（案）

《事務局》

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設事業部 施設事業推進課

《選任方法》

- 1 会長の選任については次の方法から順次行い、令和6年度第1回施設長会（4月16日（水）開催予定）において選任する。
 - (1) 立候補
 - (2) 会員施設による推薦
- 2 立候補については次のとおり扱うこととする。
 - (1) 会長に立候補する者は、次の期間内に所定の用紙に立候補理由を記し、事務局に提出する。
〔立候補期間：2月21日（金）から3月7日（金）まで〕
 - (2) 立候補期間終了後、事務局から各会員施設へ立候補状況を報告し、立候補者の有無により次のとおり対応を行う。
 - ①立候補者がいる場合
立候補者がいる場合は、第1回施設長会において立候補者による所信表明を行い、信任を諮る。なお、立候補者が複数いる場合には下記の投票方法により選任を行う。
 - ②立候補者がいない場合
立候補者がいない場合は、次項3の推薦による選任を行う。
- 3 推薦については次のとおり扱うこととする。
 - (1) 上記の立候補期間内に会長への立候補がない場合には、各会員施設へ会長候補者の推薦依頼を行い、次の期間内に推薦を受け付ける。
〔推薦期間：3月11日（火）から3月21日（金）まで〕
 - (2) 推薦期間終了後、事務局から各会員施設へ推薦状況を報告する。なお、推薦のあった候補者には、現行の役員又は事務局より事前の連絡を行う。
 - (3) 推薦のあった候補者については、第1回施設長会において信任を諮る。なお、候補者が複数いる場合には下記の投票方法により選任を行う。

《投票方法》

- (1) 直接無記名投票とする。
- (2) 上位1位の票数を得、かつその得票数が出席施設の過半数を超えた者を当選とする。
- (3) 投票の結果、上位1位の者が出席施設の過半数を超える票を得なかった場合は、第1回目の投票の上位2名を候補者とし、第2回目の投票を行い、上位1位の票を得た者を当選とする。
- (4) 投票にあたり、次のものは無効票とする。
無記入、判読不可、候補者以外の氏名の記載、複数の候補者氏名の記載

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
会長立候補届出用紙（案）

提出日 令和 7 年 月 日

ふりがな	
候補者氏名	⑩
施 設 名	
立候補理由（抱負）	
受 理 日	令和 年 月 日 ⑩

【立候補期間】 令和7年2月21日（金）から3月7日（金）まで

【提 出 先】 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課

〒211-0053 川崎市中原区上小田中6-22-5

TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
会長候補者推薦書（案）

提出日 令和 7 年 月 日

《 推薦人 》

氏 名

施設名

連絡先

老人福祉施設協議会の会長として次の者を推薦いたします。

《 推薦者 》

氏 名	
施設名	
連絡先	
推薦理由	

【推薦期間】令和7年3月11日（火）から3月21日（金）まで

【提出先】社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課

〒211-0053 川崎市中原区上小田中6-22-5

TEL 044-739-8717 FAX 044-739-8737

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
災害プロジェクト委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会（以下、「本協議会」という）災害プロジェクト委員会（以下、「本委員会」という。）の設置運営等に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 本委員会は、本協議会の会員施設が発災時にも業務を継続して運営出来るよう、また市内の高齢者施設が連携することにより、利用者への安定したサービスが継続出来るよう、つぎの事項について検討する。

- (1) 職員の安全と行動に関すること
- (2) 利用者の安全とサービスの継続に関すること
- (3) 施設機能の維持と機能低下の予防に関すること
- (4) 市内会員老人福祉施設との連携に関すること
- (5) その他本委員会が必要と認めたこと

(構 成)

第3条 本委員会の委員は次の者とし、概ね10名程度の委員を以って構成する。

- (1) 本協議会会員施設（施設長又は施設運営に関わる役職員）
- (2) 委員の構成は川崎市内在いくつかのエリアに分け、それぞれの特性を考慮し選出する
- (3) その他本協議会会長が必要と認める者

2 本委員会の委員は会員施設からの公募による選出を行い、本協議会会長が委嘱する。

(役 員)

第4条 本委員会には委員の互選により、委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は本委員会を代表し、会の円滑な運営に努める。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年以内とし、本協議会会長が定めた期間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期途中で欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、本委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 本委員会で検討された事項は、直近の施設長会での報告を行い、必要に応じた協議を行う。

(事務局)

第7条 本委員会の事務局は、川崎市社会福祉協議会福祉部施設事業推進課に置く。

(その他)

第8条 この要綱を変更する場合は、施設長会において決定するものとする。

- 2 この要綱に定めるもののほか、本委員会の運営に関し必要な事項は、本協議会会長が別に定める。

附 則

この要綱は平成27年6月17日から施行する。

この改正要綱は令和3年2月17日から施行する。

この改正要綱は令和5年4月19日から施行する。

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
災害プロジェクト委員会 委員名簿

■委員任期：令和５・６年度

(順不同・敬称略)

No.	役職	区	委員氏名	所属先	所属先 役 職
1		川崎	見 原 啓 一	ビオラ川崎	施設長
2		幸	寺 下 敏 幸	幸風苑	施設長
3		中原	田 邊 浩 康	せせらぎ	施設長
4		中原	佐 藤 徹	ひらまの里	施設長
5		高津	登 坂 太 郎	和楽館	副施設長
6	○	宮前	稲 垣 仁 久	わらく桃の丘	施設長
7	◎	多摩	山 口 皓 史	生田まほろば	施設長
8		多摩	藤 谷 敬 一 郎	菅の里	施設長
9		麻生	佐 藤 香 一	潮見台みどりの丘	副施設長
一		一	清 水 完 敏	老人福祉施設協議会	会長

◎委員長 ○副委員長

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会
人材プロジェクト委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会（以下、「本協議会」という。）人材プロジェクト委員会（以下、「本委員会」という。）の設置運営等に関して必要な事項を定める。

(目 的)

第2条 本委員会は、川崎市内の老人福祉施設のこれからの運営を担う新たな福祉人材の発掘及び育成とともに、既に働いている福祉人材がその専門性を活かして生き生きと活躍し、やりがいを持って働き続けられる環境を構築していくため、次の事項について検討する。

- (1) 新しい福祉人材の発掘及び育成に関すること
- (2) 市内で既に働いている福祉人材の養成及び定着に関すること
- (3) 介護福祉士養成校等との連携に関すること
- (4) 市内福祉人材養成関係機関との連携に関すること
- (5) 市内会員老人福祉施設との連携に関すること
- (6) その他本委員会が必要と認めたこと

(構 成)

第3条 本委員会の委員は次の者とし、概ね10名程度の委員を以って構成する。

- (1) 本協議会会員施設（施設長又は施設運営に関わる役職員）
- (2) その他本協議会会長が必要と認める者

2 本委員会の委員は会員施設からの公募による選出を行い、本協議会会長が委嘱する。

(役 員)

第4条 本委員会には委員の互選により、委員長1名及び副委員長2名を置く。

- 2 委員長は本委員会を代表し、会の円滑な運営に努める。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は2年以内とし、本協議会会長が定めた期間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 任期途中で欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第6条 本委員会は委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長が必要と認めるときは、本委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 本委員会で検討された事項は、直近の施設長会での報告を行い、必要に応じた協議を行う。

(事務局)

第7条 本委員会の事務局は、川崎市社会福祉協議会福祉部施設事業推進課に置く。

(その他)

第8条 この要綱を変更する場合は、施設長会において決定するものとする。

- 2 この要綱に定めるもののほか、本委員会の運営に関し必要な事項は、本協議会会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月21日から施行する。

この改正要綱は、平成31年4月17日から施行する。

この改正要綱は、令和3年2月17日から施行する。

この改正要綱は、令和5年4月19日から施行する。

人材プロジェクト委員会 委員名簿

■任期：令和5・6年度

(順不同・敬称略)

No.	役職	区	委員氏名	所属先	所属先 役 職
1		川崎	古敷谷 耕平	大師の里	施設長
2		川崎	伊藤 規子	しおん	施設長
3		川崎	和田 泰明	桜寿園	施設長
4	◎	中原	岩壁 信行	等々力	施設長
5		高津	中島 洋二郎	新緑の郷	施設長
6	○	高津	平山 みちる	すえなが	施設長
7		多摩	茶園 恵美子	多摩川の里	施設長
8		麻生	吉野 英明	金井原苑	苑長
－		－	清水 完敏	老人福祉施設協議会	会長

◎委員長 ○副委員長

川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会 役員・委員等について

① 老人福祉施設協議会正副会長

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

役 職	氏 名
会長	清水 完敏 (夢見ヶ崎)
副会長	白井 裕一 (富士見プラザ)
副会長	平山 みちる (すえなが)

◎川崎市社会福祉協議会施設部会に委員として参加

② 老人福祉施設協議会人材プロジェクト委員会

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

役 職	氏 名
委員長	岩壁 信行 (等々力)
副委員長	平山 みちる (すえなが)
副委員長	—

③ 老人福祉施設協議会災害プロジェクト委員会・防災班長会議

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

役 職	氏 名
委員長・議長	山口 皓史 (生田まほろば)
副委員長・副議長	稲垣 仁久 (わらく桃の丘)

④ 川崎市社会福祉協議会 理事・評議員

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

役 職	氏 名	備 考
老人福祉施設協議会 会長	清水 完敏 (夢見ヶ崎)	理事
老人福祉施設協議会 副会長	白井 裕一 (富士見プラザ)	評議員

⑤ 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

役 職	氏 名
県老人福祉施設協議会 副会長	清水 完敏 (夢見ヶ崎)
—	白井 裕一 (富士見プラザ)
—	平山 みちる (すえなが)
—	関口 英志 (おだかの郷)
—	田邊 亜佳音 (片平長寿の里)

◎川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会正副会長等会議に参加

⑥ 神奈川県社協老人福祉施設協議会課題別部会委員

任期：令和５・６年度（２ヵ年）

（敬称略）

課題別部会	役 職	氏 名
施設運営 に関する部会	—	白井 裕一 (富士見プラザ)
	—	関口 英志 (おだかの郷)
人材確保等 に関する部会	部会 委員長	小林 秀夫 (新緑の郷)
	—	岩壁 信行 (等々力)
災害対応 に関する部会	—	山口 皓史 (生田まほろば)
	—	稲垣 仁久 (わらく桃の丘)

⑦ 第２２回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員

任期：令和６年度下半期～令和７年度上半期 （敬称略）

現
平山 みちる (すえなが)
古敷谷 耕平 (大師の里)
岩壁 信行 (等々力)
茶園 恵美子 (多摩川の里)

⑧ 高齢者福祉施設 PR 委員会

任期： (敬称略)

現	前
白井 裕一 (富士見プラザ)	

⑨ 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会の川崎市代表

任期：令和5・6年度（2ヵ年） (敬称略)

現
清水 完敏 (夢見ヶ崎)
—

⑩ 首都圏高齢者福祉協議会の川崎市代表

任期：単年度 ※第1回の会議において、正副会長選任 (敬称略)

現	前
清水 完敏 (夢見ヶ崎)	清水 完敏 (夢見ヶ崎)

※令和5年度は未実施

⑪ 川崎市社協ボランティア活動振興センター運営委員

任期：令和6・7年度（2ヵ年） (敬称略)

現	前
保育施設協議会より選出	清水 完敏 (老人福祉施設協議会／夢見ヶ崎)

※施設部会各協議会にて輪番制

⑫ 川崎市福祉人材バンク運営委員

任期：令和6・7年度（2ヵ年） (敬称略)

現	前
清水 完敏 (夢見ヶ崎)	清水 完敏 (夢見ヶ崎)

⑬ 川崎市総合研修センター 研修アドバイザー

任期：単年度（令和6年度新設） (敬称略)

現	前
和田 泰明 (桜寿園)	

令和 7 年度 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会
老人福祉施設協議会 事業計画（案）

令和 7 年度においては、団塊の世代が 75 歳以上となり、超高齢化社会が一層加速すると言われており、老人福祉施設を取り巻く環境の変化に応じた対応が求められています。

また、種々の感染症への対応、生産年齢人口減少に伴う人材確保難、物価高騰による財政圧迫が継続する中、本協議会では、各会員施設において質の高い、安定した施設運営が進められるよう、施設職員の資質向上のための研修や施設間での情報共有のための取組みを引き続きオンライン等も活用しながら実施していきます。

また、市内各種福祉関係団体から構成される社会福祉協議会の特性を活かし、各会員施設並びに行政、関係機関との連携・協力をこれまで以上に図りながら、地域包括ケアシステムの推進、介護人材の確保・育成・定着、災害時の対応等、地域に根差した取組の検討に努めるとともに、引き続き、川崎市老人福祉施設事業協会との協議を持ちながら、会員施設の運営に有意義となる必要な取組の実施及び検討、事業の整理を進めていきます。

1 正副会長等会議（随時）

協議会の事業計画及び実施について協議する。

2 施設長会（川崎市老人福祉施設事業協会施設長会と合同開催）

- (1) 事業の推進及び連絡調整を行う。
- (2) 施設運営に係る各種情報交換を行う。
- (3) その他必要な事項について協議する。

※原則、偶数月第 3 水曜日開催予定（8 月のみ第 4 水曜日）

3 調査・研究事業

(1) 災害プロジェクト委員会の開催

発災時の対応や平時からの備え、発災後の事業継続等に関する協議及び取組を行う。

(2) 人材プロジェクト委員会の開催

介護人材の確保及び育成、発掘に関する協議及び取組を行う。

(3) 次期介護報酬改定を見据えた取組の実施

①他機関との連携による次期介護報酬改定を見据えた検討及び取組の実施

②前年度決算に基づく経常増減差額比率（収支差額率）調査の実施

(4) 市内老人福祉施設の人材確保等に関する調査の検討及び取組の実施

(5) 川崎市老人福祉施設事業協会実施事業への協力

4 研修・交流事業

(1) 老人福祉施設関係者等研修会を開催する。

災害や人材に関する研修会の他、必要なテーマに基づく研修を実施

(2) かながわ高齢者福祉研究大会をはじめとする神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会、首都圏高齢者福祉協議会、大都市社会福祉施設協議会、全国社会福祉協議会の各種大会、研修会等に参加及び協力を行う。

(3) 「社会福祉施設と地域をつなぐ『ふくしの出張講座』」を行う。

5 連携・調整事業

- (1) 会員間の情報共有、連携・調整の強化を図る。
- (2) 川崎市老人福祉施設事業協会との連携を図る。
- (3) 川崎市福祉人材バンク、総合研修センター等の人材育成関連部署との連携を図る。
- (4) 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会、首都圏高齢者福祉協議会、大都市社会福祉施設協議会、全国社会福祉協議会との連携を図る。
- (5) その他、関係機関、団体との連携・調整を図る。

6 その他

- (1) 川崎市老人福祉施設事業協会との協議の上、必要に応じた事業調整を行う。
- (2) その他、必要な事業を行う。

令和 6 年度 神奈川県社会福祉施設協議会施設部会老人福祉施設協議会
第 3 回委員会

日 時：令和 7 年 2 月 6 日（木）午前 10 時～12 時
会 場：神奈川県社会福祉センター 4 階 402・403 会議室

挨拶：西山会長

議事進行：西山会長

■議題

- 1 かながわ高齢者福祉研究大会事業の進捗状況について
→ 県社協事務局より別紙資料に基づき説明
⇒ 応募締め切りは 3 月 14 日（金）15 時
研究発表は各ブロック事務局を通して推薦、介護技術発表は県社協フォームで直接応募
- 2 高齢者福祉施設 PR 委員会について
→ 県社協事務局より別紙資料に基づき説明
3 月 3 日（月）に委員会を開催し、ホームページのレイアウトを確定させる
トピックス記事取材編集の班員を改めて募集する
- 3 課題別部会について
→ 県社協事務局より別紙資料に基づき各部会の進捗状況について説明
- 4 任期満了に伴う委員改選について
→ 県社協事務局より別紙資料に基づき説明
推薦締め切りは 3 月 31 日（月）
⇒川崎は改選の為 3 月 31 日までに推薦することは不可、4 月の施設長会で決定する
- 5 第 2 回総会・第 3 回研修会について
→ 県社協事務局より説明 ※資料省略
3 月 13 日（木）
午後 1 時から午後 2 時・・・第 2 回総会
午後 2 時 15 分から午後 4 時 45 分・・・第 3 回研修会
研修会テーマ：地域から選ばれ、自分たちが誇れる施設であるために
～CS（ご利用者様満足度）の向上を目指して～
- 6 令和 7 年度事業計画および収支予算（案）について
→ 県社協事務局より説明 ※資料省略
⇒総会に提出することで承認
- 7 各ブロックの取組状況について
→ 参加委員全員から取組状況や課題について説明
※交付金、食費基準単価増額、入所待機者数、有料職業紹介事業者、福祉避難所 等

会議報告書

会議名	第 22 回かながわ高齢者福祉研究大会 第 3 回実行委員会	報告者 関
開催日時	令和 6 年 12 月 25 日(水) 午前 10 時から 12 時まで	
会場	神奈川県社会福祉センター6 階 601・602	

概 要

《出席者》老施協正副会長 4 名（欠席：大久保副会長、篠原顧問）
 正副実行委員長 5 名
 実行委員 12 名（欠席：坂本委員、山口委員）
 神奈川県高齢者福祉施設協議会、横浜市社協、川崎市社協、相模原市社協
 県社協事務局

進行：晝間実行委員長

■議題

1 第 2 回実行委員会検討内容振り返り

事務局より、資料に基づき第 2 回実行委員会（10 月 15 日）及び大会運営打合せ（11 月 20 日）の検討内容について報告を行った。

晝間実行委員長より：

- ・同一 I D で複数人が視聴する状況になるべく防ぎたい。購入意欲を高める方法を考えることが必要。
- ・横浜の予選大会でも審査員により点数のばらつきがあった。基準を設けることを検討したい。
- ・広告については、各実行委員の施設にて取引している業者に積極的に声をかけていただきたい。

2 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュール案について説明を行った。

3 係別打合せ

資料に基づいて、係別で検討・意見交換を行った。

<大会運営>（記録：川崎市社協 鈴木氏）

1. アーカイブ構築の検討

- ・アーカイブ用動画の録画方法について、ZOOM による録画にすると新たにシステム構築費用が発生するため、現行どおりパワーポイントによる録画とする（パワーポイント動画作成マニュアルも既にあるため新たにマニュアル作成の手間も省ける）。
- ・施設で 1 つの ID とパスワードを共有されるのを防ぐのは困難。一法人 1 アカウントは防ぎたいので、パソコン等媒体ごとの制限をかけるに留めるので良い（コストにもよるが…）。一法人複数施設のところで、さすがに施設間でパソコンを使いまわすことはしないだろう。

- ・アーカイブ視聴を含む会費について。

会 員：【会場参加+アーカイブ視聴】 8,000 円 【アーカイブ視聴】 5,000 円

非会員：【会場参加+アーカイブ視聴】 10,000 円 【アーカイブ視聴】 7,000 円

- ・会員と非会員の参加費について、前回大会では会員 6,000 円、非会員 8,000 円となっていたため、それにならって 2,000 円の差をつける。
- ・会場費 480 万円、アーカイブ用サーバー費用 10 万円の計算。会員の【アーカイブ視聴】のみが 20 以上であればサーバー費用は賄える。
- ・会場参加目標人数の 600 名を超えるために、会場参加を増やす仕掛けづくりが必要になる（PR 方法の検討）。

- ・一般参加や学生参加は前日までの申込みで無料。当日参加者は一律 10,000 円の参加費とする。

厳しいかもしれないが、会員、非会員、一般の見分けが難しいため（学生証の提示があれば参加費は無料にできるかも？）

2. 開催要項の検討について

- ・当日大会冊子の作成如何は協賛企業広告収入に依存するため、協賛企業出展担当の判断に委ねる。
- ・アンケートはQRコードによる完全フォーム形式。Amazon ギフトは案のとおり 1,000 円×30 人が妥当（600 人の参加見込みで 20 人に 1 人[5%]は当たる見込み）。

3. 受付について

- ・316 を受付会場とする予定だったが、出入口が 1 つであるため大いに混雑することが予想される。
入口と出口は別々の方が良いように思われる。313 と 314 であればパーテーションで区切られているだけなので、パーテーションを取り払って出入口を分けることでスムーズな動線を確保することができる
と予想される。
- ・受付はQRコードリーダーを使用（5 台[内 1 台はエラー対応用]）。不測の事態には業者が対応する。
当日参加者、受付コード忘れへの対応に実行委員 1 名は必要。
- ・お弁当を注文した場合、QR コードに情報が反映されると思うが、同じ人が複数回お弁当を受け取れてしまうようなことはないか。仕様を確認する必要がある。

4. PR戦略について

- ・XとInstagramを活用することになっているが、坂本施設長にSNS関係を担当してもらう予定。
- ・フォロワーを増やす方策として、エントリーした施設でSNSを使用している施設については必ずフォローしてもらうよう案内する。

5. その他

- ・大会運営の 4 つの係と必要予定人員

受 付（実行委員 2 名、係員 3 名[AM2 名、PM1 名]）

誘 導（実行委員 1 名、係員 2 名[AM2 名]）

来 賓（実行委員 1 名）

SNS（実行委員 1 名）

<研究発表> （記録：相模原市社協 秦氏）

1. 表彰について

賞の名前	題数	選び方	発表・受賞等
参加賞	40	各ブロックから厳選されてきたものなので、参加した40題全てに参加賞を渡す。	当日参加賞を渡す ⇒参加賞があるのか、どのようなものかは未検討（県社協確認）
優秀賞	4	各ブースから各1題選ぶ。	① 審査日 当日、審査員で行う ② 発表は11月の県社協福祉大会 ⇒9月の福祉研修大会表彰式にて
最優秀賞	1	各ブースから上った4題から1題を選ぶ	① 審査日 後日、実行委員で行う（録画を確認） ② 受賞式は、11月の県社会福祉大会にて行う。 「県知事表彰」とする

2. 審査員について

- ・5名（①養成校、②施設長、③施設中堅職員、④行政、⑤新聞社）

※⑤が難しい場合はそこに施設長を追加

⇒④行政は県社協から各行政へ打診・県社協より通知 ⑤は県社協から打診

- ・基準票は4段階。5人で評価を行い、最高点と最低点を外し、中間3人の点数を合計した点数で、評価・審査。

- ・審査員の目線合わせができるとよい

⇒審査員の事前説明

R7. 6月の「係員説明会」時に来ていただき、説明と1事例を用いて審査をしてみる。共通認識をもつ。（ただし、行政やマスコミの審査員は来られないかもしれないので、対応を考えておく）

【題数と発表時間】

- ・発表15分－質問5分－移動・休憩5分

- ・1ブース 10題

40題÷4ブース＝10題

題数40題に変更！

(R6. 12月時点)

横浜 12
川崎 6
県域 12
相模原 4

※残り6題について

- ・横浜または県域からのストックがあればお願いします。
- ・養成校にも声掛けをして、1枠はいれてはどうか

3. 研究発表の募集後のカテゴリー化

- ・題目が上がってきてからでないと、カテゴリーに振り分けられない。
- ・募集要項は1月に担当打合せを実施し検討する。

4. 発表内容ブラッシュアップ研修について

- ・研究発表希望者に対して行う内容

① 大島たけし先生による発表の仕方や心構え・・・県社協より依頼

② 倫理的配慮の文言を入れた ZOOM を作成し配信。

(小田原・足柄地区福祉施設連絡会の資料「倫理的配慮」と横浜市の高齢者福祉研究大会の注意事項(著作権等)を参考にする)

◎今後の検討事項

- ・募集要綱について
- ・事前説明会とブラッシュアップ研修の内容と時期の確認
⇒R7, 1 月に打ち合わせる

<介護技術発表> (記録：高齢協 宮口氏)

1. 介護技術発表募集・発表プログラムについて

- ・研究発表との違いをどう出すか。
- ・研究発表でおむつ交換があれば介護技術発表に回してもらってもいいのではないかな。
- ・企業と連携した場合、商品名を出して大丈夫なのか。その企業のPRになっちゃわないかな。
- ・企業と連携することは否定しないが、企業名を強調しない。
- ・発表のとき企業が同席しても良いが、発表には関わらないようにしてもらおう。
- ・誰でもできると思えるような発表が良い。技能実習生などにも発表してもらいたい。
- ・発表は 15 分×16 題とする(発表時間は研究発表に合わせる)。
- ・施設で撮影した動画だけでの発表でも、パワーポイント資料の中に動画データを入れても良い。
- ・前年度のチラシを参考に、動画も併用できること、LIFE や ICT などの文言を入れる。

2. 評価者および表彰数・アーカイブ動画の提出方法について

- ・評価基準や評価者は、どんな分野が集まるかわからないので今は決められない。
- ・事前提出シートでどんな内容かねらいなどを事前確認し、それによって評価者や評価基準を決める。
- ・評価者は委員でも良いのではないかな。
- ・評価基準は大会テーマにつながっているか。
- ・内容がそれぞれ違うので点数化するのは難しいのではないかな。
- ・全発表を奨励賞としても良いのではないかな。評価者からフィードバックする。

3. 課題事例、事前提出シート様式について

- ・資料は、締切後に係で確認する。
- ・確認方法は、1 日かけてチェックするか、分担してチェックするかは締切後に検討する。

4. 介護技術発表者事前講習会について

- ・日程は研究発表と合わせる。

◎今後の検討事項

- ・募集要項を 1 月中に完成させる。

<協賛企業出展コーナー> (記録：横浜市社協 黒川氏)

1. 協賛企業について

- ・アイリスオーヤマ（お掃除ロボット）と外国人人材会社は出展希望。
- ・前回大会では、約 30 社程度の参加だった。会場を業種別に分けて配置するのは難しい。
どの業者かどうかはパンフレット等にわかりやすく明記する必要があると思う。

〈声かけできそうな会社・業界〉

- ・トーカイ（カーテンクリーニング）は、夏は旅館や病院の注文があり忙しいとのこと。
出展は人員の関係でない可能性が高いが広告は出してくれるのではないか。
またカーテンや布団のクリーニングを行っている人員に左右されない企業があるか。
- ・日建学院など、初任者研修や実務者研修を行っている企業。（養成校より出展の可能性は高いのではないか。）
- ・養成校や社福士/介護福祉士の履修のある通信。
- ・保険会社
- ・葬儀会社
- ・飲料メーカー（自動販売機）
- ・防災備蓄の商品を取り扱っている企業
- ・修繕や設計会社
- ・コクヨ等の事務用品を扱う企業
- ・施設の清掃や設備会社 等

2. 申込要綱について

（1）エリア及料金について

ひろば側、海側と分けていたが、料金も含め分けずに統一する。

（2）申込内容

- ・スペースのみ、スペース＋広告＋動画（15 秒）とする。
- ・スペースは1 スペースまたは2 スペース、広告は1 口、2 口、4 口の3 種類、広告の口数に合わせて動画の投稿（X と Instagram それぞれ）を合わせる。

スペース数 (1/2)	申込内容	協賛金 (1 スペース/ 2 スペース)
1 or 2	スペースのみ	65,000／12,000
	スペース＋広告 1 口＋動画投稿 1 回	75,000／135,000
	スペース＋広告 2 口＋動画投稿 2 回	85,000／145,000
	スペース＋広告 4 口＋動画投稿 4 回	115,000／175,000

- ・広告のみの場合は、2 口以上に動画の投稿を加える。（1 口の場合はなし）
- ・動画は強制ではなく、任意。15 秒の尺で作成をしていただく。
※その他仕様（音の大きさやデータの大きさ）については、事務局に調べていただく。
- ・動画については、大会当日、発表の会場にて、入れ替え時間や休憩時間に放映することを記載する。

（3）申込期間

- ・ 3月末～4月中旬。データの締切を4月末頃までとする。

※動画の再生頻度や当日の投影についても割り振るため、時間が必要。

(4) 出展について

エリアや場所は選べず、先着順になることを記載する。

3. その他

- ・ 大会当日の動画放映については、希望企業数と放映できる時間で計算するため、企業出展の申込後に調整する。

〈確認事項〉

動画の投稿（X と Instagram）を誰がやるのか、投稿していただけるのかを確認する。

⇒大会運営の方で確認。どの程度動画を希望する企業がいるかで投稿期間も県社協と相談する。

⇒当日の動画操作は、会場の機材係に依頼予定。

4 その他

○委員会後、正副実行委員長の振り返りで出された上記以外の意見について

- ・ アワードは、4会場の1位を会場で決めた上で、その4つの動画を後日実行委員が観て最優秀賞を決定する。最優秀賞は県知事賞（賞金10万円）。第2位の3発表に対するアワードは審査員となるマスコミに打診する。
- ・ 社会福祉大会では、時間が限られているため表彰できるのは最優秀賞のみ。
- ・ 企業の15秒動画は、当日も会場にて〇〇ブースの●●会社というスライドを間に入れ、休憩中に放映できるようにする。機材担当が簡単な操作で流せるよう作りこみが必要。
- ・ 次回大会以降、大会自体の冠を企業に売ったり、パンフレットと一緒に試供品を渡したりするような方法を検討しても良いかもしれない。

○第4回実行委員会

日時 令和7年4月11日（金）10時から12時

場所 神奈川県社会福祉センター 4階 402・403号室

○第5回実行委員会

日時 令和7年4月28日（月）13時から15時

場所 神奈川県社会福祉センター 4階 401・402号室

以上

福祉サービス推進部

研究発表募集要綱

大会テーマ ～2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える～

大会日程

■開催日時

2025年7月2日(水)

10:00～16:00

■発表会場

パシフィコ横浜 会議センター

みなとみらい線

「みなとみらい駅」より徒歩 3 分

JR 線・市営地下鉄

「桜木町駅」より徒歩 12 分

■大会ホームページ

かながわ高齢大会で検索

<https://www.kanagawafukushitaikai.jp/>



「かながわ高齢者福祉研究大会」は、神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会が主催となり、高齢者福祉施設職員の実践活動や福祉のプロを志す学生の研究活動等、県内の高齢者福祉に関わる取り組みの発表を通し、ともに学び合い、かながわの高齢者福祉の最前線を社会に発信することを目的としています。

第22回「かながわ高齢者福祉研究大会」は、これまで多くの高齢者福祉従事者や学生等の熱意によって積み上げてきた大会の目的・目標を踏まえ、今後の高齢者福祉の発展に必要な要素を考えた「新たなカタチ」として開催いたします。

研究発表の更なる質の向上と高齢者福祉の専門性を高めるためにもぜひ、ご応募をお待ちしています。



募集概要

募集題数

40題

応募締切

2025年3月14日(金) ※各ブロックの締切については、当該県・市事務局にお問い合わせください。

応募資格

社会福祉法人が運営する神奈川県内の高齢者福祉施設・介護保険事業所の従事者、介護福祉士養成校の学生

※神奈川県社協会員法人・施設及び県内介護福祉士養成校が優先となります。

※在宅系サービス従事者の方、学生の皆さんも奮ってご参加ください。

応募方法

◆発表演題の応募は各ブロック（県・横浜市・川崎市・相模原市）からの推薦となります。応募方法は各ブロックにお問い合わせください。各ブロックの推薦書を受理後に各発表演題に発表IDとパスワードを発行いたしますので、それにより大会ホームページ上の専用フォームで発表演題を登録して下さい。

（抄録登録：4月30日(水)まで/パワーポイントデータ送信：5月30日(金)まで）

※期間内に、登録を行ってください。

※神奈川県社協会員法人・施設においては、横浜市・川崎市・相模原市・県域の各ブロックで選抜していただいた後、法人・施設ごとに登録して下さい。

参加費

会 員：【会場参加 + アーカイブ視聴】 8,000円

非会員：【会場参加 + アーカイブ視聴】 10,000円

表彰

実施要綱ならびに審査基準に基づき、4会場にて高得点だった上位各1つに優秀賞が授与されます。またその中から1つに最優秀賞（県知事表彰【予定】）が授与されます。

発表時間 発表時間 15 分、質疑応答 5 分。 ※詳細は事前説明会（動画配信予定）でご案内します。

発表内容 発表には抄録とパワーポイントを使用します。
※上記以外にアーカイブ用にパワーポイントを用いて発表動画を作成いただきますのでご了承ください。

大会テーマ「2040 年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」

労働力不足、
生産性低下 etc.
多岐にわたる問題
が懸念

人員や財源の
不足が深刻化

高齢化と
人口減少が
進行

2040 年は、高齢化と人口減少が進行することが予想され、その中で社会的・経済的な問題が発生すると言われています。
現在 2025 年から、そう遠い未来ではありません。
多岐にわたる問題に私たちは、どのように対応し、これからの福祉・介護の未来を描いたら良いのでしょうか？
それぞれの施設・事業所・学校でこのテーマに向き合い、考えられることを「考察・研究」し、エントリーして下さい。（発表テーマは問いません）

～発表テーマ例～

- 2040 年問題に対して、生産性向上を図るために、どのような取り組みが考えられるか。
- 人材不足が予測される中で、ICT 化を図り効率的に運営し、適材適所に職員を配置する。
- 処遇改善加算の一本化を機会に、外国人・高齢者・未経験者等、多様なキャリアパスを実現する。
- 今までのかかりつけ医との関係を発展させ、医療との連携がさらに充実し安心感が増した。
- 2040 年を見据えた認知症ケアのあり方として求められることは何か。

応募の流れ

1	応募 各ブロック施設、養成校 等	[締切]2025年3月14日(金) 午後3時まで 各ブロックからの推薦となります。詳しくは各ブロックにお問い合わせ下さい。
2	事前説明会【動画配信】 ブラッシュアップ研修会【動画配信】	2025年 4 月4日(金)～4月18日(金) 必ずご視聴ください。
3	抄録の登録	[締切]2025年4月30日(水) 午後3時まで
4	パワーポイントデータの送信	[締切]2025年5月30日(金) 午後3時まで

事例発表にあたっての「倫理的配慮」について

事例の発表にあたっては多くの人に情報を提供することとなり、発表する側の責任が発生します。研究発表をする際には、研究・発表協力者（例えば、研究等の対象者、職場の同僚等）の個人情報の取扱いについて、倫理上、人権上配慮する必要があります。

この倫理的配慮は、研究（事例）対象者を守ることではありますが、一方で研究・発表者側を守るものでもありますので、発表にあたり下記内容をご確認ください。

1. 法人、施設内で発表内容の確認をしてください

研究発表の内容については、法令順守の観点から、必ず法人、施設内の施設長や責任者等の確認をお願いいたします。

2. 研究(事例)対象者に説明と同意をし承諾を得てください

研究（事例）対象者に対して、研究発表の目的、事例の取扱い、発表内容を説明し、承諾をいただってください。研究対象者に意思確認が取れない場合は、その方の代理人(成年後見人、身元保証人など)の承諾を得てください。

なお、同意を得るための説明をする際には、研究（事例）対象者や代理人がその同意を途中で撤回した場合においても不利益を生じさせることはないことを、申し添えてください。

3. 安全の確保に配慮してください

研究発表の内容が、研究（事例）対象者の身体的症状や栄養の改善を取り上げた場合、対象者の身体的・精神的マイナスが生じないように主治医に相談を行うなどの配慮が必要となります。

※例えば、血液検査をしていく、特定の飲料や栄養補助食品などを摂取してもらうような場合（直接体に触れたり器具を入れるなど体に影響を与えるような場合）

※抄録登録から一定期間内に、発表内に関連する企業や営利を目的とした団体から物品の提供及び金銭の授受があった場合は、利益相反につながる恐れがあり発表が無効となることもありますのでご注意ください。

注意事項

- ◆会場割と時間割は、発表テーマごとに分類し、同一法人・施設ができる限り同じ時間帯に重ならないよう調整のうえ、大会実行委員会において決定しています。発表者からのご要望には一切お応えできません。
- ◆大会実行委員会では、広報および記録のため、写真撮影・ビデオ撮影を行います。
- ◆パワーポイントデータの作成について
 - ・大会当日に使用するソフトは「**パワーポイント 2019**」となります。他のバージョンで作成したデータは、互換性の影響等により、作成された内容のとおり動作しない可能性があります。
 - ・**大会当日の機材トラブルを避けるため、ファイルは 40MB 以内で作成してください。**画像や動画、音声等を使用される方は、ファイルを圧縮するなどしてください。
 - ・利用者等が写っている画像を使用する場合は、発表者が責任を持ってご本人、ご家族等の承諾を得てください。
 - ・イラスト等を使用する場合に、その使用に関してフリーの素材なのか、利用にあたって制限があるのか、著作権に十分留意してください。もし、その使用に関して、賠償等の状況が発生した場合には、その使用者の責任となりますので、あらかじめご了承ください。

◆発表登録内容の変更について

- ・次の①～②については、期間内であれば変更可能です。
 - ①抄録の登録内容を変更する場合：4月30日(水)午後3時まで
 - ②パワーポイントデータの送信内容を変更する場合：5月30日(金)午後3時まで
- ※ID/パスワードを忘れてしまった、新たに登録し直したいといった場合には、登録期日内までに大会事務局(県社協)まで必ずメール(sisetu@knsyk.jp)にてご連絡ください。

当日のパワーポイントデータの差替えは、当日の会場設営の妨げとなるだけでなく、会場で使用するパソコンへ負荷を加え、動作停止等のトラブルの直接的な要因となりますので禁止しております。

発表演題の決定から当日までの流れ

- ◆大会当日の会場割と時間割、当日の集合時間・場所等は、発表募集期間終了後、発表演題決定者のみに発表決定通知と併せてご案内します。
- ◆この大会は発表者と参加者が共に作り上げていく大会です。発表者、共同発表者も参加者同様に参加申込をお願いいたします。
参加費 1 名(会場参加 + アーカイブ視聴)：会員施設 8,000 円、非会員施設 10,000 円

その他

- ◆発表に関連する抄録以外の資料については、発表会場の入口の前に、配布資料用のテーブルを用意しますので、発表者自身で必要数を印刷の上、設置提供いただくことが可能です。
設置提供を希望される場合は、事前に事務局までお知らせください。

研究発表の応募方法やホームページの掲載内容に 関することなど、お気軽にご連絡ください。

<大会事務局>

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進部

〒221-0825 横浜市神奈川区反町 3-17-2 神奈川県社会福祉センター内

TEL 045-534-5662 Mail sisetu@knsyk.jp

大会ホームページ [かながわ 高齢大会](#) で検索 又は右記 QR コードから



第22回かながわ高齢者福祉研究大会 介護技術発表募集要綱

～2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える～

2040年には、高齢化と人口減少が進行することが予想されその中で社会的・経済的問題が発生すると言われています。そう遠い未来ではない2040年を見据え、現在の状況でいかに介護技術の向上及び発揮をしていくか考え発題してください。今回から当日会場での実技発表に加え事前に施設等で撮影した動画を活用しての発表も募集いたしますので、ICTやLIFEの活用など、幅広い分野での実践を共有する機会となっています。

本大会は、お互いの技術や工夫を発表することで技術の向上や業務改善のヒントを得ることを目的としています。また、介護に携わる職員が、介護という仕事の素晴らしさをアピールする場となっています。

発表テーマ事例

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> レクリエーションの実践 | <input checked="" type="checkbox"/> 個別ケアの事例 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 移動介護（トランスファー）について | <input checked="" type="checkbox"/> ICT化と効率アップの実践 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 認知症ケアについて | <input checked="" type="checkbox"/> LIFEの活用について |

日時 2025年 **7** 月 **2** 日(水)

時間 セミナー 10:00～16:00

場所 パシフィコ横浜
会議センター
3階フロア貸切



お申込み
お問合せ

<大会事務局 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会>

☎ **045-534-5662** ✉ sisetu@knsyk.jp

〒221-0825 神奈川県横浜市神奈川区反町3-17-2 神奈川県社会福祉センター内

第22回かながわ高齢者福祉研究大会 介護技術発表募集要綱

募集概要

募集題数

◆16題



募集期間

◆2025年2月5日（水）午前9時～3月14日（金）午後3時

応募資格

◆社会福祉法人が運営する神奈川県内の高齢者福祉施設、介護保険事業所の従事者、介護福祉士養成校の学生。

- ・年齢経験、役職は問いません。
- ・ベテランの方も奮ってご参加ください。

応募方法

◆下記よりご応募ください。

【応募フォーム（Googleフォーム）】

<https://forms.gle/bDmFbUhW5Lp9nbi39>



- ・同一施設から複数の発表を行う場合は、それぞれ応募が必要です。
- ・応募件数により早期終了または、参加者調整をさせていただく場合がございます。

参加費

◆大会参加費のみご負担ください。

- ・会 員【会場参加＋アーカイブ視聴】 8,000円
- ・非会員【会場参加＋アーカイブ視聴】 10,000円

発表時間

◆発表時間15分、質問5分、移動・休憩5分

発表内容



①実演型発表



②動画利用説明型発表

◆日ごろから実践している介護技術や工夫を会場で発表します。

- ・テーマ：「～2040年を魅力的な福祉
介護の未来に変える～」

上記の大会テーマに沿ったもの。

- ・発表方法：①または②どちらかを選んでください。

①発表者が、場面やモデル等を設定する実演型発表。

（従来の発表スタイル）

※説明者・実技者・モデル役に分かれて行う方法でモデル役は説明者との兼任も可、2人以上の複数でも可。

②パワーポイントに動画を挿入して行う説明型発表。

（今大会より採用）

※説明者1人での発表が可。

参 考

過去の発表例

- ・むせこみやすく、誤飲リスクの高い方の食事介護
- ・利用者の残存機能を活かした移動介護
- ・持ち上げない介護～自然な動きに逆らわない介護～
- ・認知症の特性に合った着脱支援

注意事項

◆発表動画の撮影について

(1) 発表資料を作成する際の留意点

以下の項目については、発表内の音声及び抄録の内容に共通する事項です。

①発表事例に関するプライバシーの保護

- ・人物の特定が可能な氏名、イニシャル又は「呼び名」は使用しない。
- ・人物の住所、出身市町村名を記載しない。
- ・氏名、住所ともイニシャル（例：R子、U.N、S市、K町など）を使用しない。記載する場合は、Aさん、Bさん、A市、B町などとする。
- ・生年月日を記載しない。（年齢の記載は可）
- ・発表する事例については、発表に関し本人や家族の同意を得てください。
- ・利用者の写真等を使用する場合は、本人や家族の承諾を得てください。
- ・プライバシー保護のため事例内容の一部を変更する場合は「プライバシー保護のため、論旨に影響を生じない程度に、事例の一部を変更した」と説明・記載してください。

②著作権、商標への配慮

- ・キャラクター名、キャラクターの画像を使用しない。
- ・使用する写真、動画の背景等にキャラクターが写っている場合、モザイク処理は必要ありませんが、意図的なキャラクターの使用はできません。
- ・BGMなどは著作権への配慮が必要になります。使用する場合は、動画提出前に発表者自身にて著作権者から許諾を得てください。
- ・商品、器具などが取り扱い方法に沿って正しく使用されているかよくご確認ください。
- ・特定の商品、器具の効果を宣伝・証明するような表現にならないようご配慮ください。

(2) 自施設にて撮影する際の留意点

- ・撮影機材はビデオカメラ等問いませんが、動画は以下のかたちでご提出ください。

動画サイズ：フルHD

フォーマット：MP4

- ・発表の全体が映るように撮影してください。定点カメラでの撮影を推奨します。

- ・動画提出後、編集にて対応できる点は次の通りです。

①収録された音声の音量調節（大小）②発表前後の不要なシーンの削除

③演題や問い合わせ先等、全発表の共通項目に関するテロップ入れ

- ・音割れの修正や、外部音声（話し声や、車の走行音など）の除去は行えませんので、提出前にご確認ください。
- ・モデル役については、実際の利用者にご出演頂いても構いませんが、(1)ー①『発表事例に関するプライバシーの保護』をご確認のうえ、ご対応ください。
- ・動画データは、事前に事務局より送付しますUSBメモリーに保存のうえ、事務局宛に送付頂きます。



講 評

その他

◆学識経験者等による講評のフィードバックを行います。

◆ベッドや車椅子等の機材は、大会実行委員会にて手配します。技術発表の際に必要なもの（持ち運びできる程度の福祉用具、自助具等）は、原則として施設で使い慣れているものを各自お持ち込みいただきます。

- ・その他詳細については、事前説明会（2025年4月18日（金）オンライン開催）にてご連絡いたします。

第22回かながわ高齢者福祉研究大会 介護技術発表募集要綱

発表決定から当日までの流れ



第22回かながわ高齢者福祉研究大会 今後のスケジュールについて

日 時	内 容	備 考
10月15日(火) 10:00~12:00	第2回実行委員会	第1回実行委員会の検討を受けて、さらに詰めていく。開催要項、受付業務委託の検討、審査員や審査基準の擦り合わせ、協賛企業メリット出し 等
10月下旬	新大会についての説明会開催?	新たな方法となる大会のテーマや募集内容について説明会を開催するかどうか。倫理的配慮等についても説明。 ➡大会チラシを各事務局へ配布のみ
12月25日(水) 10:00~12:00	第3回実行委員会	各ブロックの状況確認、研究発表募集要綱、介護技術発表募集要綱、企業協賛広告・出展申込要領の作成、ホームページ及びアーカイブ構築の整理 等
1月下旬~下旬 ※2月7日	大会ホームページの開設	まずは大会開催について告知。順次、内容を更新していき、第4回実行委員会後に各募集を開始。
3月14日(金) 15:00まで	各ブロックの推薦締め切り	各ブロックに照会し、それぞれの推薦を集め、全体の状況を確認する。
4月11日(金) 10:00~12:00	第4回実行委員会	発表内容によりカテゴリー化の整理、発表施設との調整事項整理、周知方法確定 等
4月4日(金) ~4月18日(金)	事前説明会 発表内容ブラッシュアップ研修会	【動画配信】 説明会、研修会の内容検討。講師依頼。
4月中旬~5月中旬	参加申込受付期間 企業協賛受付期間	
4月28日(月) 14:00~16:00	第5回実行委員会	係員の役割及び人数割出、事前準備の内容確認 等
4月30日(水) 15:00まで	抄録の登録締め切り	
5月30日(金) 15:00まで	パワーポイントデータの送信 アーカイブ用動画締め切り	
6月中旬	第6回実行委員会+係員説明会	最終確認。係ごとに、細かい部分まで確認を行う。
7月2日(水)	大会当日	パシフィコ横浜3階
9月下旬	第7回実行委員会	大会振り返り・表彰式

会議報告書

会議名	老人福祉施設協議会 令和6年度第3回高齢者福祉施設PR委員会	報告者 坂本
開催日時	令和7年1月22日(水) 午前10時から正午まで	
会場	神奈川県社会福祉センター 4階 401会議室	

概 要

《出席者》大久保副会長、委員3名、
横浜市社協、川崎市社協、相模原市社協、県社協事務局
(欠席：神奈川県高齢者福祉施設協議会)
進行：大久保副会長

■議題

1 県老施協 HP の構成について

事務局より資料1頁から4頁に基づき説明を行い、以下のとおり決定した。

決定した内容に基づき、HP業者に3パターンのデザイン案を作成するよう依頼し、次回委員会にて提示することとなった。

<メインタイトルについて>

⇒「もっともっと かながわで 〜ずっとずっと 自分らしく〜」に決定した。

<トップページのデザインについて>

○トップ画像について

- ・イラストに動き（イラスト同士に繋がりがあるような動き等）があると良い。
- ・イラストは、子どもや赤ちゃんを含めた幅広い世代、ジェンダーレスなど、多様が良いのでは。

⇒デザイン①を基本として、構成する。イラストは絵画風（①②）に統一する。

次回委員会にて、イラストに動きをもたせたデザインを3パターン提示する。

○TOPICS 欄について

⇒背景色はえんじ色をベースとし、濃淡違いのデザインで3パターン提示する。

最新のトピックスには、最新と分かるよう“New”等の表記をする。

画像は横に自動でスライドさせ、自分で左右に進めたり停止したりできるような仕様にする。

○各種メニュー欄について

⇒メニューが横並びの③や⑤のデザインとする。

○基本情報欄について

⇒③や⑤の背景が波打つデザインとする。

背景色はグリーン色をベースとし、濃淡違いのデザインで3パターン提示する。

<施設職員の公募・大学生等への協力依頼について>

事務局より資料5頁から8頁に基づき説明を行った。

○施設職員・学生共通

- ・3,000 円のクオカードは源泉徴収の対象となるのか。対象となる場合の取扱い。
 - （事務局）源泉徴収の対象となる。取扱いは確認するが、支払額「3,342 円」とし、税率を掛け
たうえ、手取り額が「3,000 円」となるように支給する予定。
- ・1つの記事作成にあたり、どのくらいの頻度での参加が必要か。
 - （事務局）概ね3回（プロジェクト会議、取材、振り返り）を基本と考えている。座談会は別途、
依頼をすることとなる。
- ・記事のクオリティを保つためのアドバイザーとして、記者や広告企業等に参画いただいてはいかが
か。記事によって大きなバラツキ（画像、映像や文章の比率）が起きないように、プロジェクト会議
からアドバイザーに参加してもらえると良い。
- ・謝礼の金額について、参考までにプロに依頼した場合の料金が知りたい。3,000 円という金額が妥
当かどうかの判断材料になるだろう。
- ・施設職員や学生が、撮影や編集を行う機材を持っている可能性は低く、今後は取材時の機材を提供
することも考えていく必要があるだろう。
- ・取材班と制作班について、施設職員と学生は、同一人物が担当するのか。資料の図だと、それぞれ
で担うようにも受け取れる。
 - （事務局）施設職員と学生は、1人で取材班と制作班に参加してもらおう。表現を修正する。
 - ⇒アドバイザー・プロへの依頼時の謝礼について、事務局にて調査し、次回委員会にて報告する。

○施設職員

- ・公募の目安となる人数、ブロックごとの定員や募集定員は想定しているか。記事の更新頻度にもよ
るが、多くの手が挙げた場合に、調整が必要となることが考えられる。
 - （事務局）記事の更新頻度は、前回委員会にて“年間概ね4本のプロジェクト、初年は3本”と
の意見があり、来年度は3本で計画している。
 - （各ブロック事務局）周知をした際に、会員から質問が寄せられる可能性がある。
 - （大久保副会長）各ブロックで少なくとも1名ずつ申込みがあって欲しい。申込者が多数となっ
た場合は、翌年度以降に参加していただく等の調整でいかがか。 ⇒了。
- ・公募の施設職員は、派遣依頼が発出されるか、それともボランティアとなるか。業務扱いとなるか、
施設職員は気になるところだろう。
 - （事務局）実際にプロジェクトに参加することが決まった際は、施設長宛に派遣依頼を発出する。
- ・（事務局）施設職員の公募については、3月13日の総会で会員あて提案し、4月中旬頃を申込締切
とする予定。

○学生

- ・学生への依頼は、県社協が行うか、各ブロックで行うか。
 - （事務局）県社協にて行う。各ブロックでは、施設職員の公募の対応をお願いしたい。
- ・チームで動くか、個人で動くか、学生は特に気になるところでは。
 - （事務局）チームで動くこととなる。
- ・学生の謝礼について、「1回につき3,000 円」ではなく、「1つの記事で3,000 円」で良いのでは。
⇒「1つの記事全般に関わる活動で3,000 円」とする。

- ・学生複数人が1つのグループとして参加した際、「グループとして3,000円」か、「1人につき3,000円」か。後方で支給したいところだが、予算として承認が得られるか。
- ・学生のチラシについて、メリットに記載のある「経費」については、「⑤報酬等」に記載でいかがか。
→（事務局）資料を修正する。
- ・学生のメリットに、他大学生との交流を追加してはいかがか。
→（事務局）資料を修正する。

2 その他

次回委員会は、令和7年3月3日（月）午前10時から開催する。

会場は神奈川県社会福祉センター7階701。

以上

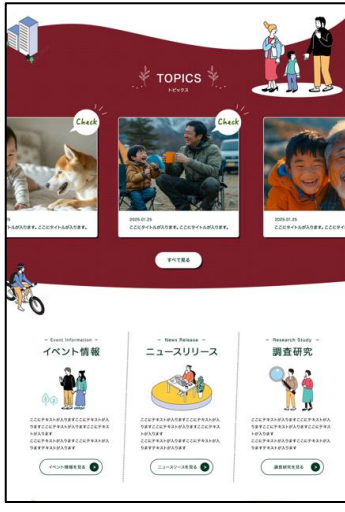
1

2

3

4

5



①

②

③

④

⑤



① ②



④



1

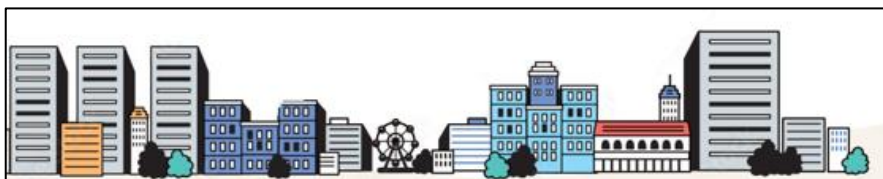
2

4



3

5



<老施協 HP メインタイトル（案）>

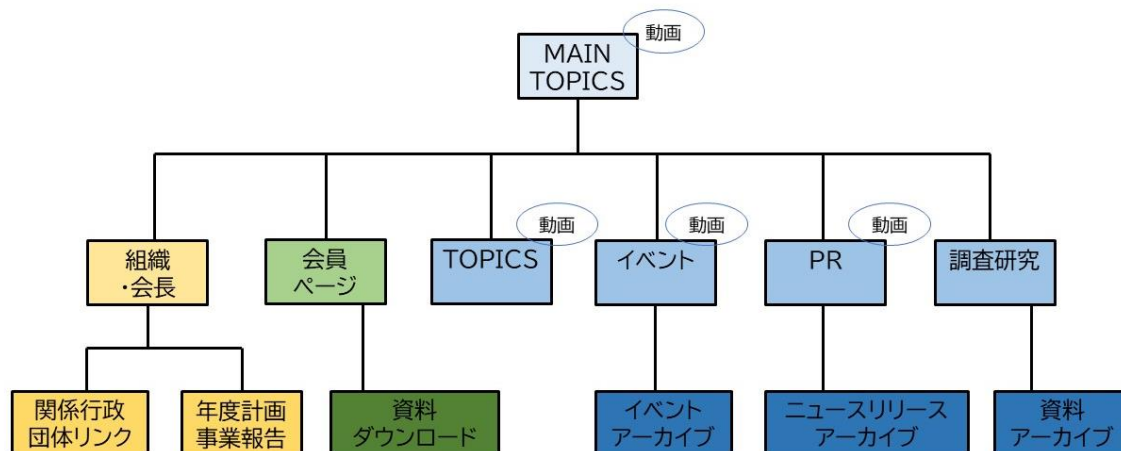
- これからも自分らしくーそのお手伝いをする施設・サービスー
- 自分らしさの扉、開けてみませんかー県内 350 の会員をもつ協議会が運営するホームページー
- ここに集まる人・情報・新たな生活スタイルの提案ーこれまでにないセカンドステージ、セカンドキャリア、セカンドチャレンジーもちろんファーストもー
- 「シニアの希望、若者の未来」を彩る、かながわの高齢者福祉
- 高齢者の笑顔が輝く、かながわの福祉。あなたの思いをカタチにする場所
- 誰もが安心して暮らせる社会へ。神奈川県の高齢者福祉施設がその一歩を支えます。
- 知る・学ぶ・活用する！神奈川県老人福祉施設協議会
- 神奈川県で探す、高齢者福祉施設のすべて。
- かながわの高齢者福祉、まるごとガイド

『老人福祉施設協議会ホームページ』と取材班員の役割について

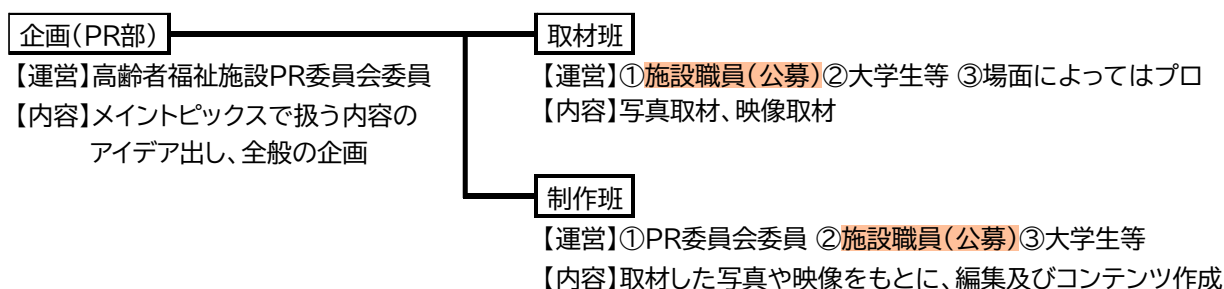
1. 「老人福祉施設協議会ホームページ」とは？

- 「老人福祉施設協議会ホームページ」は、「〇〇〇〇〇〇〇〇」をコンセプトにしたホームページです。県内の会員施設から情報提供をいただき、県内の老人福祉施設の状況を中心に取り上げるホームページとなります。
- 「老人福祉施設協議会のための、老人福祉施設協議会による、老人福祉施設協議会のホームページ」であることが特徴です。
- この度、そのコンテンツづくりを一緒に行う『取材班員』を公募することにいたしました。取材班員の皆さまが収集いただいた、各ブロックの活動状況や、地域と老人福祉施設の連携、日々の支援の様子などの情報をもとに、老人福祉施設協議会内のPR委員会で「老人福祉施設協議会ホームページ」の内容を企画していきます。
※学生の取材班員も同時に募集いたします。詳しくは別紙をご参照ください。
- 今まで以上に様々な人たちに関心をもってもらう「身近で分かりやすい」ホームページを目指します。

【ホームページ構成】



【ホームページの運営体制】



2. 取材班員の役割について

(1) 取材班員の役割

- 「老人福祉施設協議会ホームページ」のコンテンツの取材や執筆、寄稿等老人福祉施設の様子や活動等を、情報発信する役割です。
- 「老人福祉施設協議会ホームページ」の参考になる情報提供もお願いします。

(2) 具体的な活動内容

- ① コンテンツを決めるプロジェクトへの参加
(企画への提案・情報提供・意見提示)
- ② 施設等への取材と記事作成・校正
(1人につき年1本の取材記事作成。希望により本数は要相談。)
- ③ 参加しての振り返り、座談会への出席
- ④ 「老人福祉施設協議会ホームページ」の閲覧の呼びかけ

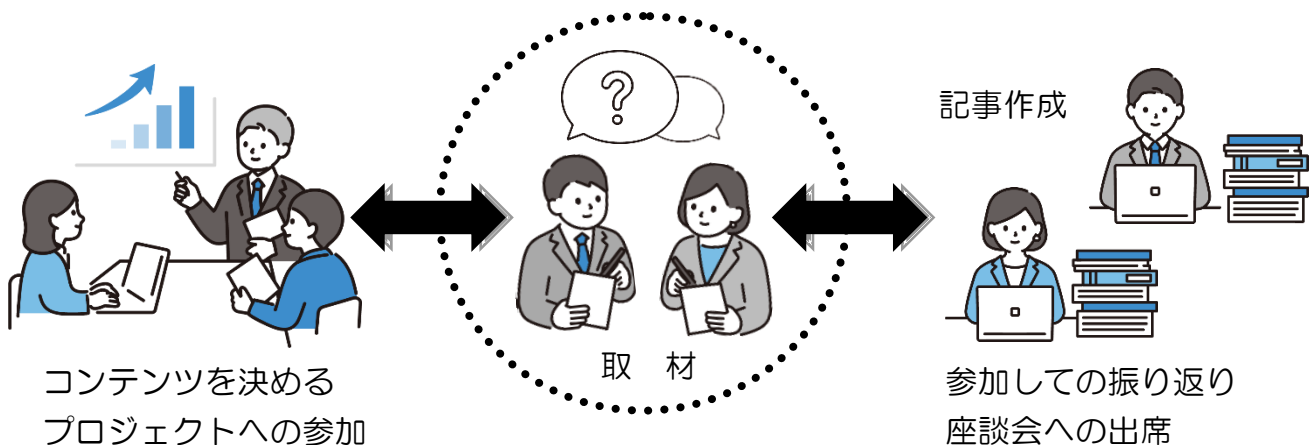


(3) 選出条件

- 所属施設の長の承認を得ている方（施設長を除く）。
- 任期は、任命した日から令和8年3月31日まで。

(4) 取材班員の位置づけ（イメージ）

現場発信の情報を仲間と共有し、具体的な取材を通して記事として発信し、さらに取材班員としての感想などにより、老人福祉施設を「身近で分かりやすい」存在として情報提供します。老人福祉施設の現場と情報を必要とする人の「パイプ役としての役割」をお願いします。



(5) 協力いただいた場合の報酬等

- ① 経費（かかる交通費等）は本会で負担いたします。
- ② 1回の参加で3,000円のクオカードを支給します。

3. 申し込みについて

- 別紙「老人福祉施設協議会ホームページ取材班員申込書」に必要事項を記入の上、下記の申し込み送付先まで送ってください。（締切：令和7年●●月●●日まで）
- 申し込み後の決定や具体的な活動依頼については、個別にご連絡させていただきます。
- 不明点などがありましたら、以下の事務局まで遠慮なくお問い合わせください。

▽問い合わせ・申し込み送付先

神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進課

〒221-0825 横浜市神奈川区反町 3-17-2 神奈川県社会福祉センター7 階

電話 045-534-5662 FAX 045-312-6302

メール sisetu@knsyk.jp

高齢者施設に関する

ご協力ください！

取材・記事作成

神奈川県社会福祉協議会は、約530法人、1,200施設を会員にもつ社会福祉関係者が集まる法人です。会員の集まりのひとつである『老人福祉施設協議会』では、今回「〇〇〇〇〇〇」をコンセプトにしたホームページを立ち上げました。

これまでは、そのコンテンツは内部で作成することが多かったですが、この度、広く業界を知ってもらいたい方々と連携して、手作りできればと考えました。次のような内容となりますので、貴学の学生への周知及び関心のある学生の参加について、ご配慮いただけますようお願い申し上げます。

▶▶ 学生のみなさんをお願いしたいこと

1

コンテンツを決める
プロジェクトへの参加



2

施設等への取材と
記事の作成



3

参加しての振り返り
座談会への出席 etc...



詳細は裏面を
ご確認ください！

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部 福祉サービス推進課（老人福祉施設協議会 事務局）

〒221-0825 神奈川県横浜市神奈川区反町3-17-2

TEL.045-534-5662 FAX.045-312-6302 MAIL.sisetu@knsyk.jp

1 ホームページの構成



2 ホームページの運営体制

企画（PR部）

【運営内容】高齢者福祉施設PR委員会委員
メインピックスで扱う内容の
アイデア出し、全般の企画

取材班

【運営内容】①施設職員（公募） ②大学生等 ③場面によってはプロ
写真取材、映像取材

制作班

【運営内容】①PR委員会委員 ②施設職員（公募） ③大学生等
取材した写真や映像をもとに、編集及びコンテンツ作成



ホームページ制作やSNS発信も
②施設職員や③大学生等が中心に行います

3 協力内容・スケジュール

- ▶▶ 協力内容 ○メインピックス等を決めるプロジェクトへの参加
○施設等への取材と記事作成
○参加しての振り返り感想、座談会への出席 等

▶▶ スケジュール

1人につき年1本の取材記事作成と、その前後の企画や振り返りへの参加。
希望によりスケジュール・本数は要相談。

4 学生のみなさんのメリット

- ▶▶ それぞれの学部・学科で進めている研究等の実践の場としての活用が見込めます！
○福祉分野に限りません。
例えば、施設の庭の有効活用や動物とのふれあいによる生活への潤い効果など、
テーマは多様です。
- ▶▶ インターンシップ的な体験が、通常とは違う角度で行うことができます！
○記者として、より内部に入っでの活動となります。
- ▶▶ 経費（かかる交通費等）は本会で負担し、些少ですが報酬があります。

5 協力いただいた場合の報酬等

- ▶▶ 1回の参加で3,000円のクオカードを支給します。
（企画、取材記事、座談会等はそれぞれ1回ずつカウントします。）

6 ルールについて

- ▶▶ 取材した内容等の権利は本会に帰属します。
本人確認の上で、取材の様子や感想を掲載する際に顔写真等が載る場合があります。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

<課題別部会について>

■施設運営に関する部会

第1回部会（令和7年1月24日 オンライン開催）

議題（1）本部会の進め方について

（2）各ブロックの取組状況について

前プロジェクト会議で報告書を作成した第3階（2021年度報告）の8つの主要論点のうち、他の部会である人材確保等に関する部会に関連しそうな項目を除く5つの主要論点について部会メンバーより現在の状況を聴き、情報共有を行った。

【主要論点】

- ①特養の経営概況（主に収益性）
- ②利用率低下の一因である待機者の減少と施設整備等との関連
- ③介護・看護配置基準と収益性や人件費負担、人材派遣依存との関係
- ④介護報酬改定に伴う新加算への対応強化と加算要件への要望等
- ⑤現場における生産性向上と福祉機器・ICTの導入活用を支援する施策

上記の情報共有とも関連して、担当副会長（県高齢協 加藤会長）より、一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会の「神奈川県高齢者施設整備状況調査報告書」の概要及び直近のデータを提供いただき、さらに情報共有を進め、全県協働の課題や喫緊の課題について整理した。

■人材確保等に関する部会

第1回部会：日程調整中

■災害対応に関する部会

第2回研修会（令和7年1月30日 開催）

テーマ：事業継続計画（BCP）シミュレーション研修－実行性のあるBCPに向けて－

講師：福祉マネジメント&デザイン 代表 水田 智博 氏

参加者：27名

結果：とても参考になった 24名 参考になった 2名 未回答 1名

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
老人福祉施設協議会委員の任期満了に伴う委員改選について

(県域) 神奈川県高齢者 福祉施設協議会	(横浜) 横浜市社協 高齢福祉部会	(川崎) 川崎市社協 老人福祉施設協議会	(相模原) 相模原市社協 高齢者福祉施設部会
----------------------------	-------------------------	----------------------------	------------------------------

令和6年度内に、各団体にて県社協会員の次期委員候補者5名を選出の上、
県社協事務局へ推薦書を提出いただく。

なお、推薦団体の事情により、年度内に提出できない場合、状況が整い次第推薦書を提出する。
第1回総会での承認後に新体制へに移るため、令和7年度第1回総会までは現委員での体制とする。

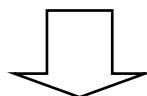
令和7年度役員改選は令和7年6月とする。



令和7年6月上旬目途 正副会長候補者の決定

〈参考〉令和5・6年度正副会長（令和6年度推薦団体改選に伴い、正副会長を再選出） ※敬称略

	令和5年度・令和6年度	令和7年度・令和8年度
協議会会長（1名）	西山 宏二郎（横浜）	
協議会副会長（4名） ※各団体から1名	加藤 馨（県域）	
	前田 卓哉（横浜）	
	清水 完敏（川崎）	
	大久保 祐次（相模原）	



令和7年度 第1回総会（6月）承認後、決定

以降、各団体の委員改選等による変更等が生じた場合には適宜変更の承認を委員会で得る。

○神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会委員及び課題別部会メンバーの推薦

- ・ 老人福祉施設協議会委員 5名
- ・ 施設運営に関する部会 2名
- ・ 人材確保等に関する部会 2名
- ・ 災害対応に関する部会 2名

第 60 回関東ブロック老人福祉施設研究総会・

第 20 回アクティブ福祉 in 東京' 25 合同大会

メインテーマ：「介護・福祉の大変革 2025～活力ある超高齢社会のために～」

開催趣旨

2025年、団塊の世代が全員75歳以上となり、日本はかつてない超高齢化社会を迎えます。物価・賃金高騰、人手不足という厳しい経営環境の中、介護・福祉の分野は大きな転換期を迎えています。この大会のテーマは、「介護・福祉の大変革2025～活力ある超高齢社会のために～」です。さまざまな困難を乗り越え、より良い社会を作るためには、次の4つが不可欠となります。

1「ICTやロボット技術の活用」、2「働きやすい職場づくり」、3「多様な人材の活躍」、4「SDGs（持続可能な開発目標）に応じた経営」

つまり、従来の介護・福祉施設の仕組みそのものを大きく変革していく必要があります。

第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会は、東京の高齢者福祉実践・研究発表大会「アクティブ福祉in東京' 25」と同時開催されます。関東ブロックと東京都の研究発表を同時に聴ける貴重な機会でもあります。あなたの参加が、将来の介護・福祉を大きく変える力になります！ぜひ、この機会に仲間と一緒に、活力ある超高齢化社会を創る方策について考えてみませんか。

ぜひご自身のネットワークを通じて広くお声がけください。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

開催期日 令和7年6月12日（木）～13日（金）

会 場 1日目（全体会）：東京ビッグサイト 7階国際会議場
2日目（分科会）：TOC 有明 4階 East&West、20階 WESTGOLD20 ホール

参加対象 関東甲信越（1都10県5市）の都県市の高齢者福祉の関係者および介護・福祉に興味のある方すべて

主 催 公益社団法人全国老人福祉施設協議会、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会
東京都高齢者福祉施設協議会

共 催 東京都介護保険居宅事業者連絡会

後 援 東京都、公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 東京部会、一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、一般社団法人 東京都老人保健施設協会、公益社団法人 東京社会福祉士会、公益社団法人 東京都介護福祉士会、日本介護福祉学会、特定非営利活動法人 東京都介護支援専門員研究協議会、日本福祉介護情報学会、一般社団法人 日本在宅介護協会 東京・北関東支部、公益財団法人 東京都福祉保健財団、公益社団法人 東京都看護協会、公益社団法人 東京都栄養士会、社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

大会スケジュール

全体会 2025年6月12日（木）

11：30-12：30	受付
12：30-13：00	オープニングアトラクション サンバチーム G.R.E.S. ALEGRIA（アレグリア）
13：10-13：50	開会式典 ①開会のことば ②主催者あいさつ ③感謝状贈呈 ④来賓祝辞 ⑤来賓紹介 ⑥主催者紹介 ⑦閉会のことば
14：00-14：30	基調報告 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 会長
14：30-15：00	行政報告 厚生労働省 老健局 高齢者支援課長
15：15-16：15	スペシャル対談 タレント ハリー杉山氏 × フリーアナウンサー 町 亜聖氏
16：20-16：30	次回開催県（栃木県）紹介
16：30	終了

分科会 2025年6月13日（金）

8：30-	受付
9：00-9：15	オリエンテーション
9：15-11：55 （午前の部）	・ 関東ブロック老人福祉施設研究総会 分科会 ・ アクティブ福祉 in 東京' 25 分科会 ※関ブロ分科会・アクティブ分科会はどちらも自由に入退室可能です。 関ブロ分科会・アクティブ分科会の参加区分は設けておりませんので、 すべての方が自由に興味のある分科会の演題をご覧ください。
12：25-13：25 （予定）	ランチョンセミナー ※参加無料（昼食弁当をお配りします）、先着順 ※セミナーの内容は4月頃大会特設サイトで公開いたします
13：35-14：50 （午後の部）	アクティブ福祉 in 東京' 25 分科会

▽関東ブロック老人福祉施設研究総会の分科会テーマ（5つ）

- ①認知症対応/医療・介護連携、看取り ②自立支援（リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養）
③経営、人材確保・育成・定着 ④在宅・デイ ⑤軽費老人ホーム・ケアハウス、養護老人ホーム

▽アクティブ福祉 in 東京' 25 の分科会テーマ（3つ）

- ①日常ケアの向上 ②科学的介護の実践・生産性向上の取り組み、地域包括ケア・地域貢献・地域共生社会 ③次世代を見据えた人材採用・育成・定着/広報戦略

【第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会・アクティブ福祉in東京'25合同大会 分科会発表一覧】

	関東ブロック老人福祉施設研究総会										アクティブ福祉in東京' 25									
	第1分科会(20階WG202)		第2分科会(20階WG201)		第3分科会(4階W-3・4・5)		第4分科会(4階W-2)		第5分科会(4階W-1)		第6分科会(4階E-4)		第7分科会(4階E-5)		第8分科会(4階E-6)					
	認知症対応/医療・介護連携、看取り		自立支援(リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養)		経営、人材確保・育成・定着		在宅・デイ		軽費老人ホーム・ケアハウス、養護老人ホーム		日常ケアの向上		科学的介護の実践・生産性向上の取り組み、地域包括ケア・地域貢献・地域共生社会		次世代を見据えた人材採用・育成・定着/広報戦略					
	都府市・所属(種別)	発表趣旨	都府市・所属(種別)	発表趣旨	都府市・所属(種別)	発表趣旨	都府市・所属(種別)	発表趣旨	都府市・所属(種別)	発表趣旨	所属(種別)	主題	所属(種別)	主題	所属(種別)	主題				
	< オリエンテーション >																			
9:00																				
① 9:15	茨城県 もみじ館(特養)	LIFEのフイードバックを具体的に現場レベルで活用するための、誤嚥予防に向けた仕組み作りや具体的な行動と経過に関する事例	東京都 白十字ホーム(特養)	特別養護老人ホームにおける誤嚥性肺炎予防のための多職種同様の取り組み事例	神奈川県 ロゼホームつきみ野(特養)	研修内容の見直し、生活環境の整備、職員の理解増進により特定技能外国人の受け入れ体制を整えた取り組み事例	川崎市 桜寿園地域包括支援センター(包括)	“縦割り”対応の解消を目指したフリーストップ機能強化のための、専門機関同士・地域住民とつながりづくりに関する事例	板橋区 ケアハウスフローラ(軽費・ケア)	町行政との密接な連携の下、コミュニケーションのやりかたを活用することや地域の振興及び地域の高齢者をもたした事例	デイサービス博水の郷(デイ)	稼働率向上への取り組み	株式会社グッドライフケア東京(居宅)	医療連携室が創る新たな在宅支援へのアプローチ	マイホーム新川(特費)	外国人職員との協働について				
9:30移動																				
② 9:35	群馬県 サンライフ閑屋町(特養)	認知症関連の外部研修で得た知識を現場で活用するために実施した、1年間の研究活動に関する事例	新潟県 菅名の里(特養)	科学的介護システム(LIFE)の各加算項目に向けた取り組みや自立支援への活用、ケアと記録の重要性についての事例	埼玉県 杏樹苑爽風館(特養)	排泄予測支援ロボットのメーカー開発者のアドバイスによりスタッフの器用度がアップ、的確にデータが取れるようになった事例	長野県 飯田市かなえ地域包括支援センター(包括)	フレイル予防の啓発に向け健康イベントを開催し、地域住民の支援や様々な世代の健康意識を高めることにつながった事例	東京都 信生園(養護)	養護老人ホーム10年間の推移と新たな提案(今、養護老人ホームが社会に求められていることに関する考察)	特別養護老人ホーム谷中(特養)	最後まで終口摂取にこだわり、誤嚥予防に取り組んだ20年	やすらぎの家(特養)	特別養護老人ホームの活動拠点となるための実践	シャローム本天沼(グループホーム)	介護職員のストレスと仕事のやりがいについて				
9:50移動																				
③ 9:55	長野県 富竹の里(特養)	職員と家族の役割、ご本人らしい人生の送り方について考えた看取りケアの取り組み	横浜市 レジデンシャル常盤台(特養)	コロナ禍でも実施でき、ご本人らしい人生の送り方について考えた看取りケアの取り組み	静岡県 久能の里(特養)	技能実習生を受け入れることによる介護サービスの影響や、技能実習生の職場への適応状況や学びに関する考察	茨城県 しらとりワイアンデイサービス(デイ)	デイのプログラムの一つとして、車を運転できる事業対象者にターゲットに絞った運動に特化したプログラムを実施し、健康寿命を伸ばす取り組み	群馬県 ケアハウス前橋(軽費・ケア)	なぜなぜ分析による不適切な言動の深掘りやケア会議での職員教育を行うことで職員の意識変化をもたらした事例	昭島市高齢者在宅サービスセンター愛全園(デイ)	園芸療法 アーシングでデトックス	特別養護老人ホーム博水の郷(特養)	働きやすい職場による利用者満足度の向上	日の出苑(特養)	外国人介護職員の定着に向けた取り組み				
10:10移動																				
④ 10:15	埼玉県 大浜ケアセンター(グループホーム大浜)(デイ)	利用者に施設生活を心地よく過ごして貰いたい思いから、職員間にとりあえずやってみようという風土が根付いた事例	千葉県 恵光園(特養)	眠りaskanを導入した事で、新たに求められるサービスの質に関する事例発表	東京都 TOKYOの未来を創る社会福祉法人協力会(協力会)	複数法人の協働による人材確保(都内10法人による就職フェアの開催)	横浜市 奉徳デイサービスセンター北(デイ)	コロナ禍からの稼働減少を踏まえ、サービス提供の見直しを行い、利用者満足度向上に向けて取組んだ事例	静岡県 掛川市さきさ荘(養護)	虐待の芽チェックリスト(日)では、様々な方向からアプローチすることで、あたたかい活動が生まれた事例	第二信楽園ホーム(特養)	ショートステイに利用者の認知症ケア実践における改善事例	株式会社グッドライフケア東京(居宅)	多職種連携における日々のデータ記録の標準化と活用モデルの提案	今井苑(特養)	研修制度の見直しと改善に向けた取り組み				
10:30移動																				
⑤ 10:40	神奈川県 潤生園(特養)	入居後下肢筋力低下で車いすとなり、又慢性便秘で気力低下傾向の方に多職種連携・個別ケアを実践し着しく効果を得た事例	群馬県 アミーゴ(特養)	後回しにされがちで、日常の口腔ケアを継続するために多職種で取り組んだ事例	栃木県 義明苑(特養)	ノーマルケアを実践し、職員の身体や心の変化、取組みの現状と課題に関する事例	埼玉県 飯能市地域包括支援センターいなり町(包括)	住民の外出機会増加を期待し、「地域にカーレットクラブを創設したことで、閉じこもり予防につながった事例	千葉県 福寿荘(軽費・ケア)	地域ケア会議を契機に複数法人が連携し、買い物難民のための買い物支援事業を実施した事例	入居の方のADL維持とQOL向上を目指し、職員も元氣になっていく取り組み	好日苑(特養)	介護ロボット等を活用し、新たな介護のイノベーションの実現による生産性向上の取り組み	癒しの里南千住(特費)	法人内の人材定着を目的とした発信活動の意識調査					
10:55移動																				
⑥ 11:00	新潟県 わしま(特養)	特別養護老人ホームにおける認知症ケアを総括し、「新しい認知症観」に基づき10年間の共生社会を開拓していくための考察	千葉県 プレミア東松戸(特養)	排泄センサーテクノロジーを活用し、尿漏れ・弁漏れに悩んでいた介護職員の生産性向上に取り組んだ事例	長野県 グリーンパルベール(特養)	5年前から管理指導部が主導して法人全体のキャリアパスを構築し、職員の資力向上と対応力の強化を実践している事例	さいたま市 中央区南部園地域包括支援センターさきしき(包括)	社会資源の地図アプリを自主制作し、「地域活動に参加したい住民」と「地域活動」をマッチングすることやフレイル予防を推進した事例	神奈川県 藤沢養護老人ホーム(養護)	養護老人ホームが今日の社会情勢において求められる役割と、現在の取り組み及び今後の可能性に関する事例報告	サンホーム(軽費)	軽費老人ホームでの食事を中心とした介護予防の実践	デイサービスセンター初音の杜(デイ)	コロナ禍から現在までの経営戦略	愛全園(特養)	排泄ケアから学ぶ人権を守るケアへの意識改革				
11:15移動																				
⑦ 11:20	山梨県 調整中		群馬県 まごころ(特養)	嗜好調査の電子化とAI活用によるデータ集計の効率化に関する事例	千葉県 ときわ園(特養)	外国人職員の雇用と育成の課題に関する事例発表	東京都 世田谷区代沢あんしんすくやかセンター(包括)	法人後見受任への挑戦(福祉ニーズに対応した法人後見事業の実現)	新潟県 ラソス新潟東(軽費・ケア)	従来の軽費老人ホームから介護付きケアハウスへ事業転換したことに伴う医療との連携及び看取りに対する工夫の事例	神明園(特養)	“楽しみ”の提供からみるサクセスフル・エイジング	池袋ほちんちゅうの郷(特養)	法人が主体となって取り組んだICT化と、施設における実践の成果について	ケアプラザたま(特費)	特定技能外国人職員の職場適応過程における諸課題				
11:35移動																				
⑧ 11:40	静岡県 亀戸の郷(特養)	『最期まで自分らしく、悔いなく暮らせる』を目標とし、亀戸の郷ACP(人生会議)の取り組み事例	栃木県 みすぎの郷(特養)	口腔衛生管理体制の確立とサービス提供に併い、歯科診療と連携し、包括的な口腔ケア実践に力を入れた事例	相模原市 相模原市高齢者福祉協議会(協議会)	介護の未資格人材の助成や乗換などをする人材を登用するための、自施設の仕事仕分けの重要性に関する事例	千葉県 富津市天羽地区地域包括支援センター(包括)	地域包括ケアシステムの推進を目的とした、住民、医療、警察機関等との連携とその効果に関する事例	山梨県 調整中		白十字ホーム(特養)	排泄ケアにおける困難事例に対するチームアプローチ	日本社会事業大学	ヤギの飼育を通じた地域交流	なぎさと楽苑(特費)	地域活動による、職員への効果について				
11:55	各部屋で表彰(～12:15)、ランチョンセミナー(12:25-13:25予定)、昼食休憩(～13:35)																			
⑨ 13:35																				
⑩ 13:55																				
⑪ 14:15																				
⑫ 14:35																				